外為ファイネスト

ファイネストFX　MT4

PC 版　マニュアル

2024 年 7 月 28 日版

目次

第 1 章 MetaTrader4 をはじめてみよう

・MetaTrader4 をはじめてみよう 5

・MetaTrader4 のインストール 6

・デモ口座とライブ口座の使い方 11

デモ口座へのログイン方法 13

ライブ口座へのログイン方法 15

・MetaTrader4 の画面構成 16

第2章　メニューとツールバー

・メニューについて 18

ファイルメニュー 18

表示メニュー 20

挿入メニュー 22

チャートメニュー 24

ツールメニュー 25

ウィンドウメニュー 26

ヘルプメニュー 27

・ツールバーについて 28

標準ツールバー 28

チャートツールバー 30

ライン等ツールバー 31

周期設定ツールバー 32

第3章 MetaTrader4 での取引(売買)方法

・MetaTrader4 での発注方法 33

・新規注文 35

成行注文 37

新規での指値注文、逆指値注文、IFDOCO 注文 38

・決済注文 40

成行決済 40

指値、逆指値での決済方法、注文の変更（指値注文、逆指値注文、OCO 注文） 41

トレイリングストップ 43

・注文の取り消し 45

第4章チャートの基本操作(MetaTrader4 の基本を覚えよう)

・チャートの基本操作 46

新規チャートの追加 48

ウィンドウの分割（チャートの整列） 50

チャートの銘柄変更 51

・チャートの種類変更 52

タイムフレーム（時間軸）の変更 52

チャートの拡大・縮小（ズーム機能） 52

第5章　インディケータとテンプレートの活用

・MetaTrader に標準設定されているインディケータの使い方 53

インディケータの追加方法 54

インディケータの削除方法 57

・テンプレートを活用してオリジナルチャートを保存する 58

テンプレートの保存 59

テンプレートを他のチャートに反映する 60

カスタムインディケータとは 61

カスタムインディケータの取得・インストール方法 63

第 6 章　MetaTrader4 で自動売買を行う

・自動売買について 67

・MetaTrader4 での自動買 69

自動売買をはじめる前のパソコンの設定 69

MetaTrader4 への EA のインストール 72

EA のパラメーターの設定方法 75

StrategyTester を使ったバックテスト方法 78

EA の最適化を行う 81

取引報告書(Daily Statement)の見方 89

MetaTrader4 をはじめてみよう

MetaTrader4 とは

MetaTrader4 は、MetaQuotes Software 社が開発した FX トレーディングプラットフォームです。

MetaTrader4 の魅力は、高機能なチャート機能を標準で備えていることや、FX トレーダーに人気の移動平均線や RSI、ストキャスティクスなど 50 種類以上のテクニカル指標を手軽に利用できることに加えて、独自のテクニカル指標をインストールすることにより様々な分析が可能であることです。

もうひとつ MetaTrader4 の大きな特徴として自動売買に対応していることが上げられます。外為ファイネストの MetaTrader4 口座を開くことにより、初心者でも簡単に自動売買をスタートすることができます。

この取引マニュアルではトレーダーの皆様が MetaTrader4 をスムーズにスタートできるように構成いたしました。

最初は慣れない言葉もあり戸惑うことがあるかも知れませんが、日頃パソコンでメールやエクセルなどのソフトを使うことができればすぐにマスター出来ると思います。

外為ファイネスト MetaTrader4 の特長

発注から約定まで一切人手を介さない STP（Straight Through Processing）方式により、
ハイスピードとレートの透明性を極めた MetaTrader4 のご提供が可能になりました。

Meta Trader4 とは…

自動売買はもちろん、バックテストにより EA の検証ができるシステム！
使いやすくカスタマイズ可能なチャート。
内蔵されている 50 種類以上の豊富なテクニカル指標を使用可！

MetaTrader4 のインストール

MetaTrader4 で取引をするにはお使いのパソコンに MetaTrader4 をダウンロードしてインストールする必要があります。
MetaTrader4 のインストールがまだの方は次のステップでまずは MetaTrader4 のインストールを行ってください。それでは早速 MetaTrader4 をインストールしてみましょう。

・はじめに

このマニュアルは Windows7 でのインストール画面にて作成されておりますが、その他の Windows OS でも基本的な作業に代わりはございません。一部画像の表記が異なることがありますがご了承ください。

例）コンピューター（Windows7、Windows10）など

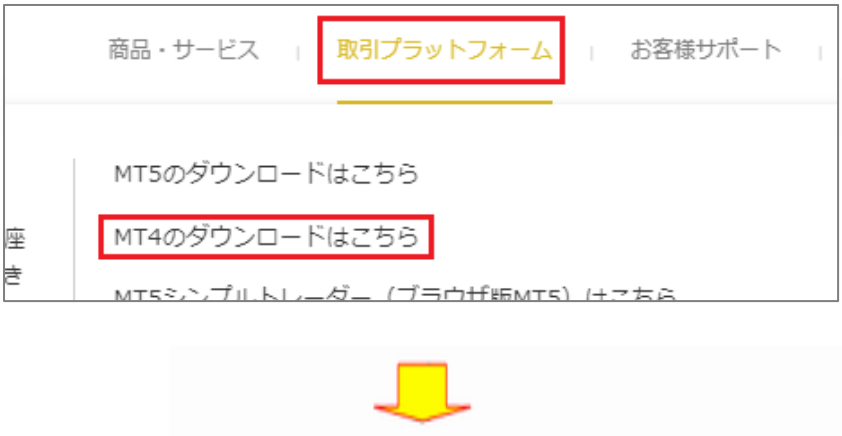
MetaTrader4 のダウンロード

MetaTrader4 をダウンロードするには、外為ファイネストのサイトにアクセスし、トップページの「MT4 インストーラー」ボタンをクリックし、プログラムファイルをダウンロードします。

またはこちらからダウンロードしてください。https://www.gaitamefinest.com/download/mt4client.exe

Google などの検索エンジンで「外為ファイネスト」と入力し検索します。

検索結果の「外為ファイネスト-MT4/MT5（FX 自動売買取引）」をクリックします。

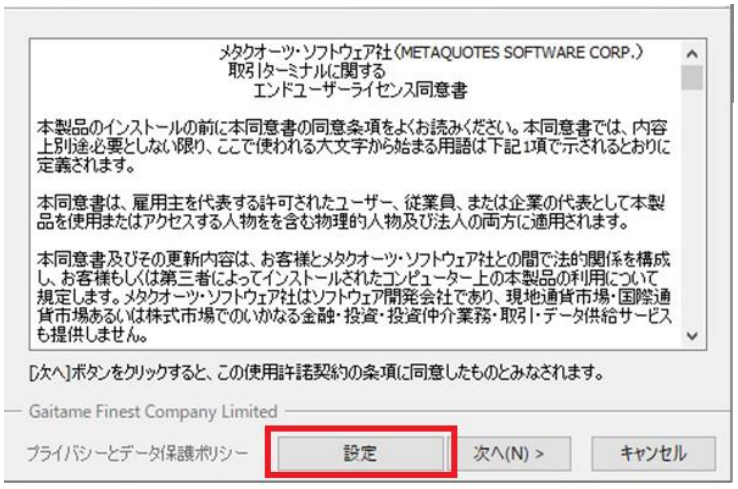


「取引プラットフォーム」ボタンをクリックし、「MT4 のダウンロードはこちら」をクリックします。

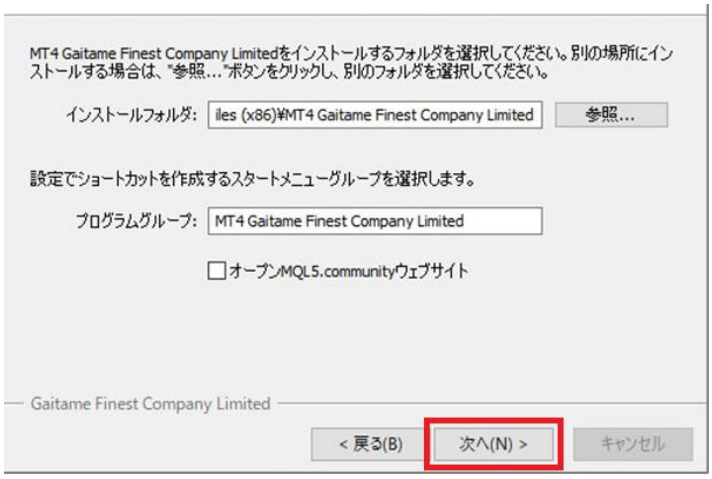
※口座開設後に送られてきたメール
RL からもダウンロードできます。

Google Chrome の場合、左下にダウンロードした「mt4client.exe」ファイルが表示されますのでクリックしてファイルを開きます。

ファイルが開くと「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されますので、「はい」をクリックします。



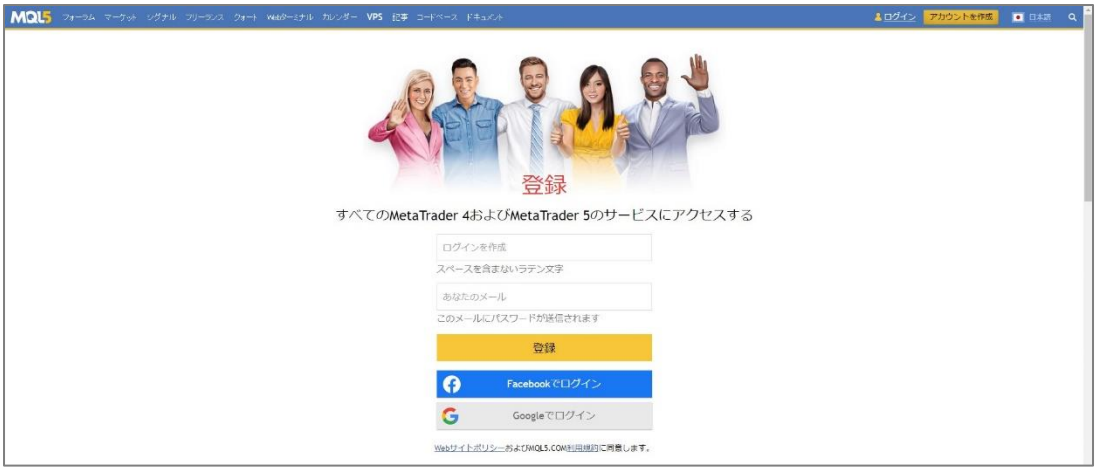
エンドユーザーライセンス同意書の内容を確認し「設定」をクリックします。



インストール先フォルダ、またプログラムグループの選択画面が表示されます。通常はそのまま「次へ」をクリックします。

※ご自身で作成したフォルダへのインストール先の変更も可能です。

※「オープン MQL5 community ウェブサイト」のチェックは外してください



※MQL5 のウェブページが表示された場合は閉じてください。

以上で MetaTrader4 のインストールは完了です。

※MT4 起動時に“デモ口座の申請”ウィンドウが表示された場合は、キャンセルしてください。

デモ口座とライブ口座の使い方

MetaTrader4 を起動するには、デスクトップに作成された「ショートカットアイコン」をダブルクリックするか、スタートメニューから「すべてのプログラム」を選択し、「MT4 Gaitame Finest Company Limited」をクリックし起動します。

デモ口座

MetaTrader4の全ての機能を使い、仮想の取引を行うことができます。取引をはじめる前に、デモ口座で MetaTrader4の操作に慣れておくことをおすすめします。

MetaTrade4を初めて起動すると「デモ口座の申請画面」が表示されますが、ここではキャンセルしてください。外為ファイネストでは、デモ口座の申請は MT4 プラットフォームではなく Web サイト（https://www.gaitamefinest.com/）から行います。

MetaTrader4のインストールが完了したら次の手順でデモ口座の申請を行ってください。

デモ口座の開設方法

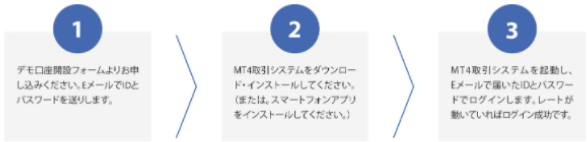
Web サイトトップページより、「デモ口座開設」をクリックします。

デモ口座開設はこちら

「個人デモ口座」もしくは「法人デモ口座」を選択してください。

MT4・ZEROデモ口座開設

個人デモ口座　>>>お申込みはこちら
法人デモ口座　>>>お申込みはこちら



実際のお取引前のテスト用口座として、デモ口座をご利用ください。
口座残高(仮想資金)100万円、レバレッジは25倍です。

※デモ口座はお申込日から90日間ご利用いただけます。
※表示される価格や、スリッページ、約定状況は実際のお取引と異なる場合がございます。

個人と法人のデモ口座比較

	個人	法人
レバレッジ	25倍	金融先物取引業協会 発表レバレッジ (詳細はこちら)
取引可能数量	0.01ロット(1,000通貨)単位 ※1ロット=10万通貨	
口座残高(仮想資金)	100万円	1,000万円

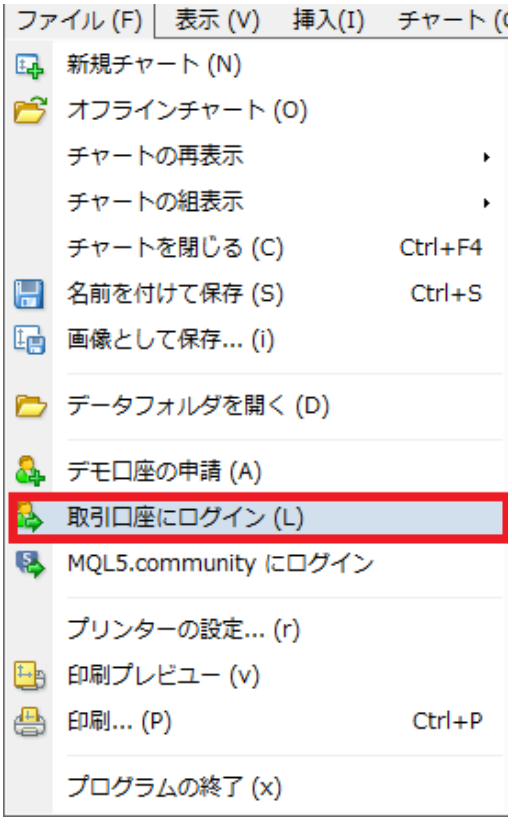
申込フォームに必要事項を入力し、「送信内容確認」ボタンを押します。

次に表示される「送信」ボタンをクリックすると、E メールでログイン ID とパスワードが送付されます。

① デモ口座へのログイン方法

デスクトップに作成された MetaTrader4 のショートカットアイコンをダブルクリックして MetaTrader4 を起動します。

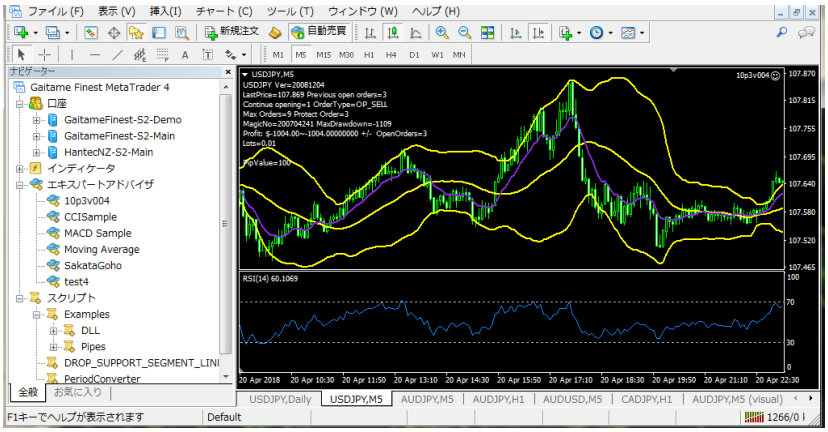
※MT4 起動時に“デモ口座の申請”ウィンドウが表示された場合は、キャンセルしてください。



ファイルメニューから 「取引口座にログイン」を選択します。

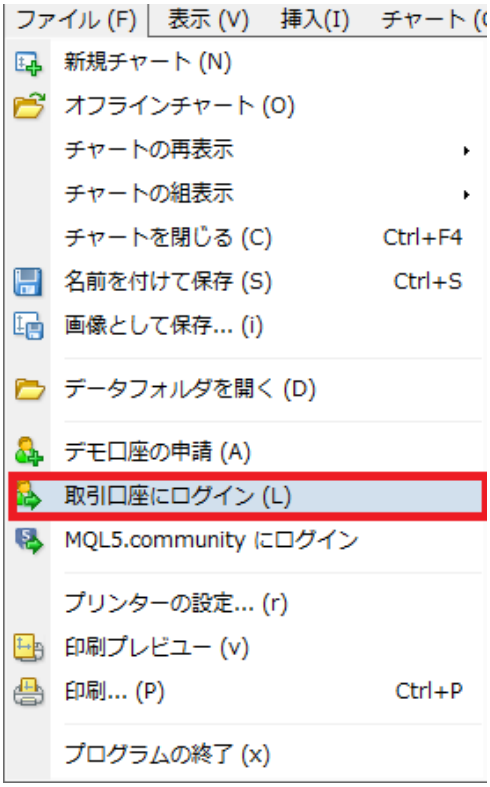
ログイン情報画面が表示されます。「ログイン ID」にメールで届いた「デモ口座のログイン ID」を入力し、「パスワード」にログインパスワードを入力し、「サーバー」欄で「GaitameFinest-S2-Demo」を選択し「ログイン」ボタンをクリックします。「ログイン情報を保存」にチェックを入れると、次回より入力を省略できます。

デモ口座の確認



無事にデモ口座へログインされると、チャートの右下の数字が動き出します。
「無効な口座」と表示されている場合は MetaTrader4 が動作していませんので、今一度ログイン情報をご確認ください。

②ライブロ座へのログイン方法



ファイルメニューから「取引口座にログイン」を選択します。

ログイン情報画面が表示されます。「ログイン ID」に開設した口座のログイン ID を入力し、「パスワード」にMT4ログインパスワードを入力し「サーバー」欄で「GaitameFinest-S2-Main」を選択します。「ログイン情報を保存」にチェックを入れると、次回より入力を省略できます。

MetaTrader4 の画面構成

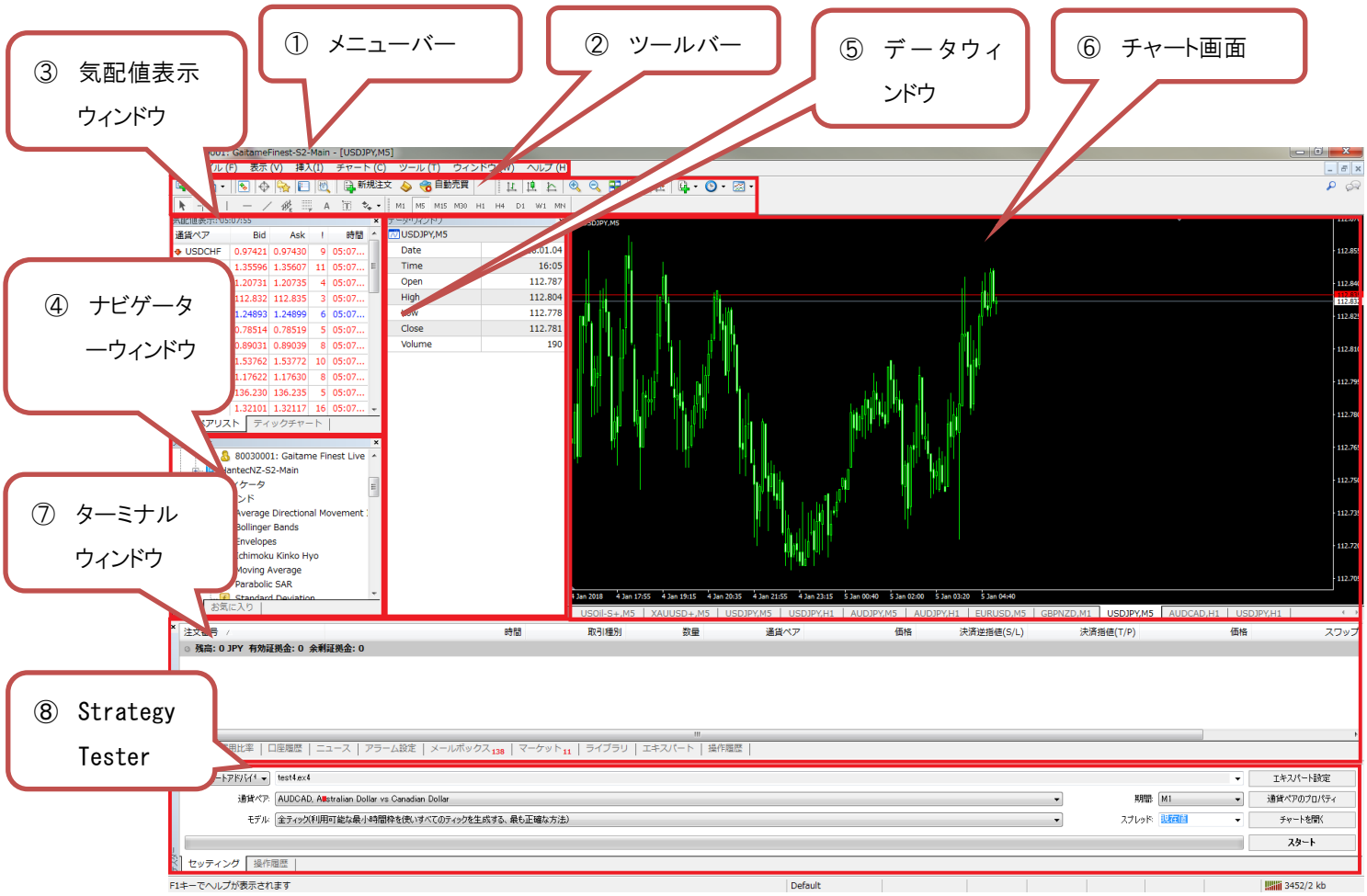
MetaTrader4 のインストール、および口座のログインが完了すると、初期の状態では下の画面のようなインターフェイスが表示されます。

MetaTrader4 では、右上にある「チャートウィンドウ」、左上にある「気配値表示ウィンドウ」、左下にある「ナビゲーターウィンドウ」、下部にある「ターミナルウィンドウ」の 4 種類のウィンドウを操作して取引を行うのが基本的な使い方です。各種ウィンドウの詳細は、後ページで紹介します。

ここでは各種ウィンドウについて簡単に解説します。

また、各種ウィンドウは、表示・非表示の設定が自由に行えます。変更はメニューバーの「表示」タブを開き、表示したいウィンドウにはチェックを入れ、非表示にしたいウィンドウはチェックを外します。「表示」タブではその他に、初期の状態では非表示になっている「データウィンドウ」や「Strategy Tester ウィンドウ」も扱うことが可能です。

MetaTrader4 の画面構成



各パートの説明

①メニューバー

：MetaTrader4 の全ての操作がこのメニューから呼び出せます。

②ツールバー

：メニューの中から主要な機能を抜粋したものをアイコン表示しています。

③気配値表示ウィンドウ

：取引通貨ペアの情報を表示します。現在の売値と買値のレートが一覧表示されます。
レートは常に変化しています。

④ナビゲーターウィンドウ

：インディケータや ExpertAdvisor を使う際に使用します。左下にあるウィンドウがナビゲーター
ウィンドウです。
口座のアカウントや、罫線分析ツール、システム売買プログラムなどに簡単にアクセス可能です。

⑤データウィンドウ

：選択したチャートの情報を確認できます。
※初期状態では非表示です。表示するにはメニューバーからデータウィンドウを選択します。

⑥チャート画面

：各通貨ペアの値動きをチャートで確認できます。
罫線分析ツールを使うことによりチャートのカスタマイズも思い通りに可能です。

⑦ターミナルウィンドウ

：「取引」「口座履歴」「アラーム設定」「メールボックス」「操作履歴」などの情報を確認できます。
下部にある横に長く伸びたウィンドウがターミナルウィンドウです。
現在取引しているポジションの管理、口座履歴、操作履歴などの確認が行えます。

⑧StrategyTester

：自動売買を行う前に ExpertAdvisor の検証をおこなうことができます。
※初期状態では非表示です。表示するにはメニューバーから StrategyTester を選択します。

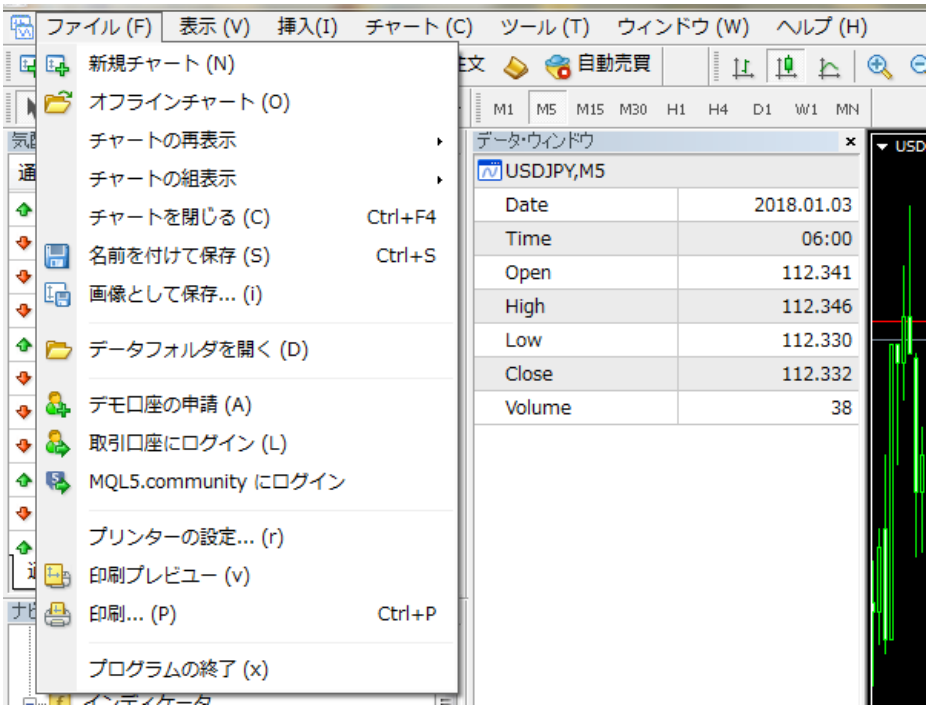
メニューについて

MetaTrader4 の全ての操作は、メニューバーに網羅されています。

この章では各メニューの内容を簡単に説明しています。

①　ファイルメニュー

チャートの操作、チャートグループの管理、チャート印刷プロパティがこのメニューにまとめられています。メニュー内で使用可能なコマンドは以下の通りです。

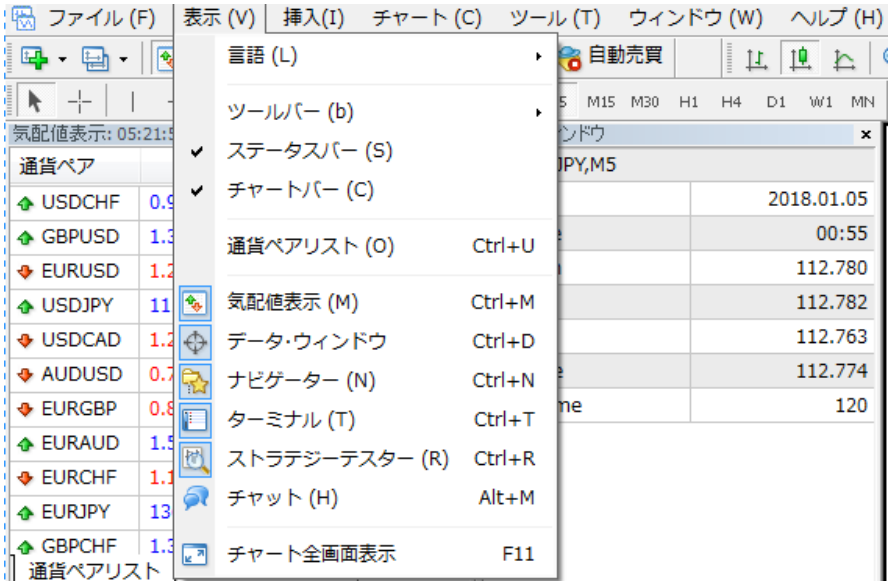


ファイルメニュー	
新規チャート	通貨ペアの新規チャートを開きます。このコマンドを実行すると、利用可能な通貨ペアのリストが表示されます。リストから通貨ペアを選択すると、新しいチャートを開くことができます。 「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
オフラインチャート	オフラインで通貨ペアのチャートを開きます。このコマンドを実行すると、保存されているヒストリーデータから必要なファイルを選択できます。この場合、チャート内にこの通貨ペアの新しい価格は反映されません。オフラインチャートを開くことはExpertAdvisorのテストに便利です。
チャートの再表示	削除済みチャートの復元をします。削除済みのチャートはターミナル設定の「再表示用に削除済みチャートを保存」が有効化されていれば復元できます。削除された定型チャートは/DELETEDディレクトリに保存されます。この

	コマンドを実行すると、その中の定型チャートが呼び出され、対応するチャートが開きます。
チャートの組表示	チャートグループを管理するサブメニューを開きます。チャートグループはこのサブメニューで保存または削除でき、以前に保存したものをダウンロードすることも可能です。管理するプロファイルは「標準」ツールバーの ボタンをクリックして呼び出すことも可能です。
チャートを閉じる	現在のチャートを閉じます。
名前を付けて保存	ヒストリーデータを「CSV」、「PRN」、「HTM」形式のテキストファイルで保存します。
画像として保存	「BMP」または「GIF」形式でチャートを保存します。チャートのコンテキストメニューコマンドの「画像として保存」でも同じ操作が可能です。
データフォルダを開く	こちらから「エキスパートアドバイザ（EA）」・「インディケータ」等をMT4へ取り込むことができます。
デモ口座の申請	この機能は利用できません。新規デモアカウント取得をご希望の場合は弊社Webサイト(http://www.gaitamefinest.com/)よりお申込ください。
取引口座にログイン	デモまたはライブ口座へのログイン認証です。 このコマンドが実行されると、ターミナルは認証された口座でサーバーへの接続を試みます。認証に成功すると、価格とニュースが配信され始め、取引の開始が可能になります。「ナビゲーター⇒口座」ウィンドウのコンテキストメニューコマンドの「ログイン」コマンドの実行または口座名をダブルクリックすることでも口座の認証ができます。
MQL5.Community にログイン	この機能は利用できません。
プリンターの設定	一般的な印刷パラメーターの設定（プリンター装置、ページ、サイズ、及び印刷の向きなど）をします。
印刷プレビュー	印刷前にチャートイメージを確認します。選択されたプリンターの設定が使用されます。このコマンドにより印刷したい全てのデータがその設定で印刷可能か事前に確認できます。「標準」ツールバーの ボタンまたはチャートのコンテキストメニュー内の「印刷プレビュー」からも同じ操作が可能です。
印刷	チャートを印刷します。「ツール」メニューのオプション設定で「カラー印刷」に設定していると、チャートは白黒印刷ではなくカラーで印刷されます。「標準」ツールバーの ボタンをクリック、またはCtrl+Pからも同じ操作が可能です。
プログラムの終了	MT4を終了します。

② 表示メニュー

シグナル画面、ツールバー、プログラムインターフェース言語などの設定に関するコマンドがこの画面にまとめられています。一部の操作は「標準」ツールバーと重複します。表示メニュー内で使用可能なコマンドは以下の通りです。

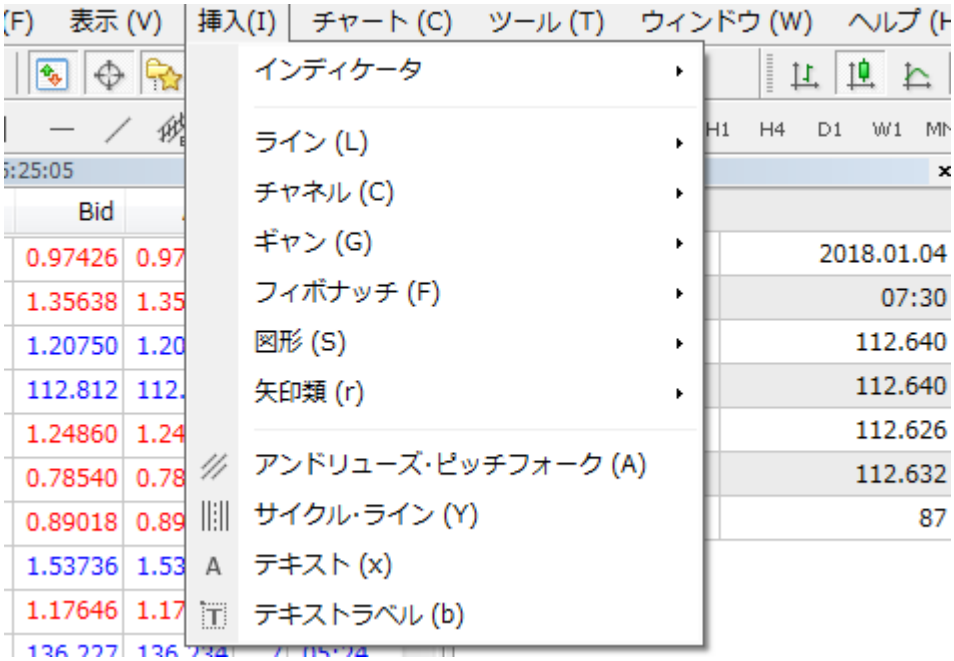


表示メニュー	
言語	クライアントターミナルの言語を設定するサブメニューを呼び出します。 使用したい言語を選択すると、ターミナルインターフェースの言語を切り替えることができます。変更を有効にするにはクライアントプログラムを再起動する必要があります。
ツールバー	ツールバーを設定するサブメニューを呼び出します。動作中のツールバーにはチェックマークが付いています。ツールバーを選択し、有効化または無効化することができます。 「カスタマイズ」コマンドではツールバーのどのボタンを配置するかカスタマイズすることができます。「挿入」または「削除」で表示するツールバーのボタンを追加したり、削除したりします。「上へ」または「下へ」ボタンでツールバー内でのボタンの位置を決定します。ツールバーを初期設定に戻すには「リセット」ボタンをクリックします。
ステータスバー	ターミナルウィンドウの最下行に表示されるステータスバーの有効化または無効化をします。左からチャートグループ管理メニュー、選択された通貨ペアの日時と価格、サーバー接続の状況、イン及びアウトのトラフィック量。チャートグループ名（初期設定は Default）の上でクリックすると、メニューが開かれ、チャートグループを保存または削除することが可能です。「ファイル⇒チャートの組表示」でもこのサブメニューを呼び出すことができます。 表示中のチャートをクリックすると、ステータスバーにその通貨ペアの日時と価格が表示されます。

チャートバー	チャート画面の下側に表示されるチャート名のタブを有効化及び無効化します。このタブを使うことで、素早くチャートの表示切替えができます。
通貨ペアリスト	通貨ペアの一覧が表示されます。
気配値表示	「気配値表示」ウィンドウを開閉します。ここに通貨ペアの現在の価格が表示されます。 Ctrl+M または「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
データ・ウィンドウ	「データ」ウィンドウを開閉します。選択された通貨ペアの価格及び配置されているテクニカル分析の情報がこの画面に表示されます。 Ctrl+D ホットキーまたは「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
ナビゲーター	「ナビゲーター」ウィンドウを開閉します。この画面には口座のリスト、インディケータ、エキスパートアドバイザ、スクリプトがツリー状に表示されます。 Ctrl+N または「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
ターミナル	「ターミナル」ウィンドウを開閉します。 この画面では取引及び口座履歴、アラーム設定、メールボックス、Experts、操作履歴、を閲覧できます。 Ctrl+T または「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
ストラテジーテスター	「テスター」ウィンドウを開閉します。この画面ではエキスパートアドバイザのテスト及び最適化を行ないます。 Ctrl+R または「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
チャット	この機能は利用できません。
チャート全画面表示	全画面表示モードを有効化及び無効化します。このオプションが有効化されると、ツールバーとステータスバーが無効になり全てのシグナル画面が終了します。クライアントターミナルのヘッダー、メインメニュー、チャート、チャート画面のタブだけがスクリーンに表示されます。再度この操作を実行すると、ターミナルは最初の画面に戻ります。F11 ボタン及び「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。

③ 挿入メニュー

チャート上に配置されるオブジェクトは「挿入」メニューにまとめられています。
その中には、図形、矢印、テキスト、テキストラベル、及びライン等と罫線分析ツールが含まれます。
「罫線分析ツール」サブメニューには全ての組み込みテクニカル分析とカスタム分析がグループ化されており、テクニカル分析をリストから選択し、それをアクティブなチャート上に配置することができます。
ライン等は対応するサブメニュー内にまとめられており、「ライン」(種々のライン)、「チャネル」(チャネルのセット)、「ギャン」(ギャンツール)、「フィボナッチ」(フィボナッチ数)によるツールがあります。更に、「アンドリューズ・ピッチフォーク」及び「サイクル・ライン」はどのグループにも属さず、最後にリストされています。オブジェクトの操作に関する詳細は相応するセクションをご覧ください。

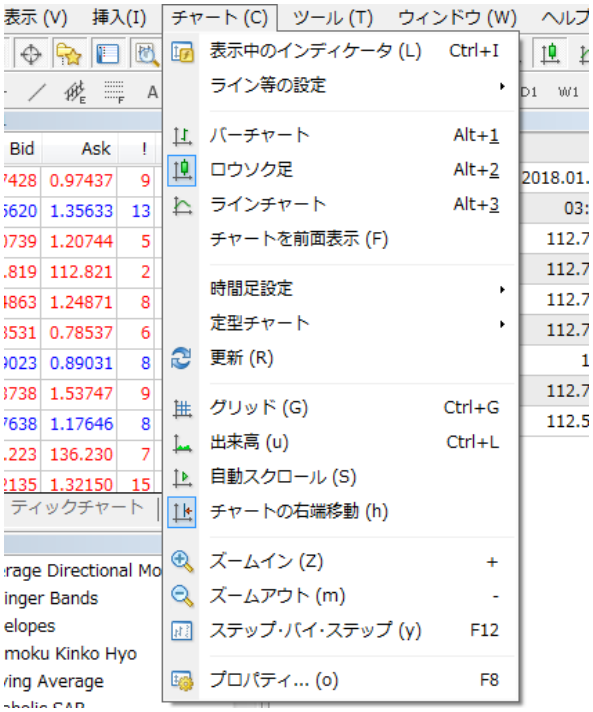


挿入メニュー	
インディケータ	チャートにインディケータを挿入できます。
ライン	各種ライン(垂直線、水平線、トレンドライン)を挿入できます。
チャネル	各種チャネルを挿入できます。
ギャン	ギャンラインなどを挿入できます。
フィボナッチ	フィボナッチをチャートに挿入できます。
図形	長方形、三角形、楕円をチャートに挿入できます。
矢印類	チャート上の最も重要なポイントを選択する記号(矢印、チェックサイン、ストップサイン、価格サイン)などをチャートに挿入できます。
アンドリューズ・ピッチフォーク	アンドリューズ・ピッチフォークをチャートに挿入できます。

サイクル・ライン	サイクル・ラインをチャートに挿入できます。
テキスト	チャート上にコメントを追加するためのテキストです。テキストはチャートに貼り付き、チャートをスクロールすると一緒に動きます。
テキストラベル	コメントを追加します。チャートではなく、ウィンドウの座標に固定されます。チャートをスクロールしてもテキストラベルは動きません。

④　チャートメニュー

チャート及びチャート内に配置されるテクニカル分析の設定、操作に関するコマンドが「チャート」メニューにまとめられています。このメニュー内で使用可能なコマンドは以下の通りです。

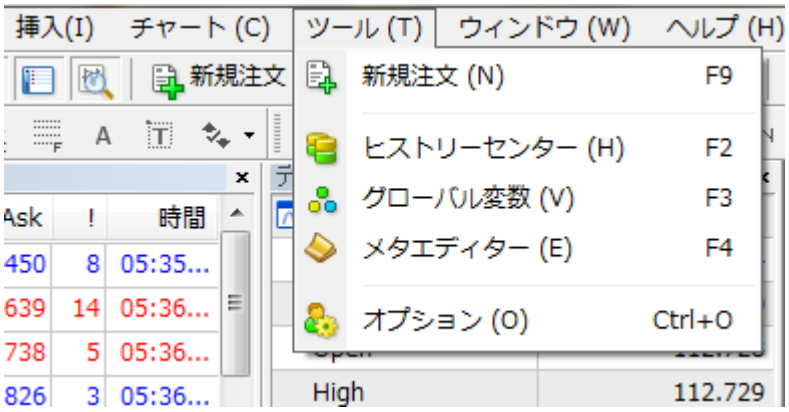


チャートメニュー	
表示中のインディケータ	アクティブなチャートに配置されているテクニカル分析を編集するための画面を呼び出します。画面上には配置された全てのテクニカル分析（カスタム分析を含む）のリストが表示されます。 1 つのテクニカル分析を選択し、設定の変更やチャートから削除することができます。 コンテキストメニューの「表示中の罫線分析ツール」コマンドまたは Ctrl+I でも同じ操作が可能です。
ライン等の設定	【表示中のライン等】 配置されたオブジェクトを表示、編集するサブメニューを呼び出します。オブジェクトにはライン、記号、図形、テキストが含まれます。選択したオブジェクトはウィンドウ内の「編集」ボタンで編集でき、「削除」ボタンで削除できます。また、「表示」ボタンはオブジェクトがチャートウィンドウの左端に位置するようにアクティブなチャートを移動します。 【直近を削除】 最後に配置されたオブジェクトをチャートから削除します。 Backspace

	キーでも同じ操作が可能です。 【選択した全てを削除】 選択したオブジェクト全てをチャートから削除します。 Delete キーでも同じ操作が可能です。 【全ての矢印を削除】 矢印全てをチャートから削除します。 【全てを非選択にする】 チャート内の全オブジェクトを選択不可能にします。 【削除の取消】 削除したオブジェクトをチャートに復元します。Ctrl+Z でも同じ操作が可能です。
バーチャート	チャートを一連のバーで表示します。 「チャート」ツールバーの ボタンまたは Alt+1 でも同じ操作が可能です。
ロウソク足	チャートを一連の「ロウソク足」で表示します。 「チャート」ツールバーの ボタンまたは Alt+2 でも同じ操作が可能です。
ラインチャート	チャートを通貨ペアの終値をつないだ折れ線で表示します。 「チャート」ツールバーの ボタンまたは Alt+3 でも同じ操作が可能です。
チャートを前面表示	チャートを「前面表示」にします。この機能が有効のとき、全ての分析用オブジェクト（テクニカル分析や図形オブジェクト）は「チャートの裏面」に配置され、前面には表示されません。
時間足設定	チャートの周期を選択します。このコマンドを実行するとサブメニューが表示され、アクティブなチャートに適用される周期を設定することができます。 チャート周期は「Period」ツールバーでも変更可能です。
定型チャート	定型チャートを設定、操作するためのサブメニューを呼び出します。このサブメニューから作業中のチャートを定型に配置することが可能です。また、作業中のチャートの新しい定型の保存や既存の定型を削除することも可能です。 定型を設定、操作するサブメニューは 「チャート」ツールバーの Templates ボタンまたはチャートコンテキストメニューの「定型チャート」コマンドでも呼び出すことが可能です。

更新	ヒストリーデータを更新します。ヒストリーに反映されていない全てのデータをダウンロードします。チャートコンテキストメニューの「更新」コマンドからも同じ操作が可能です。
グリッド	チャート画面のグリッドを表示または非表示にします。 チャートコンテキストメニュー の「グリッド」コマンドまたは Ctrl+G でも同じ操作が可能です。
出来高	チャート画面の出来高を表示または非表示にします。 チャートコンテキストメニュー の「出来高」コマンドまたは Ctrl+L でも同じ操作が可能です。
自動スクロール	新しいバーが生成された後、新しいバーの位置をチャートウィンドウの右端へ自動設定するかしないかの指定をします。自動設定に指定すると、最新のバーが常にチャート上に表示されます。「チャート」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
チャートの右端移動	チャートの最新のバーの位置をチャートのシフトラベルの位置に移動します。このコマンドを再度実行すると最新のバーはチャートウィンドウの右端に位置付けられます。チャートのシフトラベル（チャートウィンドウ上方のグレーの三角形）はマウスでチャートウィンドウの右端から10%～50%の範囲で水平方向に移動することができます。 「チャート」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
ズームイン	チャートをズームインします。 「+」キー、「チャート」ツールバーの ボタン、または水平軸の上を左クリックしながらカーソルを右に動かすことでも同じ操作が可能です。
ズームアウト	チャートをズームアウトします。 「-」キー、「チャート」ツールバーの ボタン、または水平軸の上を左クリックしながらカーソルを左に動かすことでも同じ操作が可能です。
ステップ・バイ・ステップ	チャートをバー1つ分左に移動します。 F12 キーでも同じ操作が可能です。
プロパティ	チャート全般に関するパラメーターの設定をします。このコマンドを実行すると、 チャート設定ウィンドウが表示されます。 チャートコンテキストメニューの「プロパティ」または F8 キーでも同じ操作ができます。

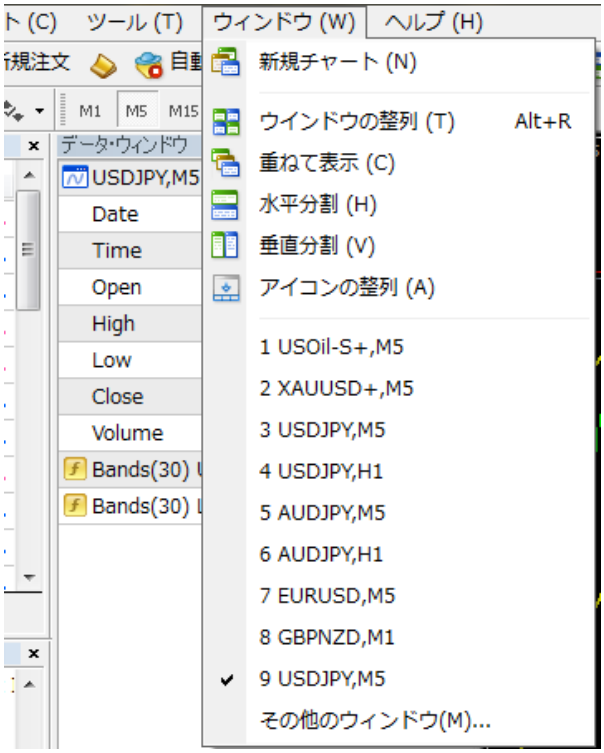
⑤ ツールメニュー



ツールメニュー	
新規注文	新規注文を管理するウィンドウを呼び出します。このウィンドウから成行注文及び指値注文を出すことができます。新規注文に関する詳細はこちらをご覧ください。 「気配値表示」 及び「ターミナル⇒取引」 ウィンドウのコンテキストメニューコマンド、「気配値表示」ウィンドウの通貨ペアのダブルクリック、F9 キー、または「標準」ツールバーの ボタンでも同じ操作が可能です。
ヒストリーセンター	ヒストリーセンター設定に関するウィンドウを呼び出します。チャートを構成する価格はヒストリーセンターで編集できます。 F2 キーでも同じ操作が可能です。
グローバル変数	ターミナルのグローバル変数のリストウィンドウを呼び出します。グローバル変数はエキスパートアドバイザ、スクリプトに共通します。F3 キーでも同じ操作が可能です。
メタエディター	エキスパートアドバイザのメタエディターを開きます。メタエディターではエキスパートアドバイザ及びスクリプトの作成及び編集ができます。メタエディターは F4 キーでも呼び出すことができます。
オプション	クライアントターミナル設定ウィンドウを呼び出します。このウィンドウでは接続、取引、チャート、エキスパートアドバイザなどのパラメーターを設定できます。 この「オプション」ウィンドウは Ctrl+O でも呼び出すことができます。

⑥ ウィンドウメニュー

このメニューにはチャート画面を管理するコマンドがまとめられています。ここでは作業領域のチャート整列の方法の選択や新しいチャート画面を開くことができます。



ウィンドウメニュー	
新規チャート	新しいチャート画面を作成します。このコマンドを実行すると、利用可能な通貨ペアのサブメニューが開きます。リストから通貨ペアを選択すると、その通貨ペアのチャートを開くことができます。 新規チャート画面は「標準」ツールバーの ボタンを押すこと、または「ファイル⇒新規チャート」メニューコマンドによって開くことができます。
ウィンドウの整列	既に表示済みの通貨ペアのチャートを全て表示します。
重ね表示	チャート画面を段々に重ねて整列します。
水平分割	チャート画面を水平に並べて表示します。
垂直分割	チャート画面を垂直に並べて表示します。
アイコンの整列	最小化された画面を整列します。開いている全てのチャート画面が最小化され、作業領域の下側に配置されます。これは同時にいくつものチャートで作業する際に便利な機能です。

⑦　ヘルプメニュー

「ヘルプ」メニューはターミナル操作に関するヘルプ情報がまとめられています。このツールを使用してもターミナル動作に影響を及ぼすことは全くありません。このメニューでは以下のことができます。

※MQL5 関連の機能は英語版のみです。また、MT4 非対応の場合があります。これらは外為ファイネストサイト外へのリンクです。リンク先のウェブサイトにおけるトラブルや損害について、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

主なヘルプメニュー	
ヘルプ・トピックス	「ユーザーガイド」であるヘルプファイルを開きます。クライアントターミナル内の全設定及び機能がここに説明されています。 F1 キーでも同じ動作が可能です。
オンライン検索	この機能は利用できません。
ビデオガイド	「トレードロボットの取得場所は？」「マーケットで買い物をするには？」「トレードシグナルとコピートレード」「バーチャルホスティングと年中無休のトレード」について動画解説の閲覧が可能。
MetaTrader 4 – App Store	iPhone 用 MT4 アプリのインストールページが表示されます。
MetaTrader 4 – Google Play	Android 用 MT4 アプリのインストールページが表示されます。
バージョン情報	ターミナルのバージョン情報を含む「バージョン情報」画面を開きます。

ツールバーについて

MetaTrader4 には 4 つの組み込みツールバーがあります。
MetaTrader4 で使用される主なコマンドはボタン形式でツールバーに表示しています。
通常ツールバーはメインメニューの下に配置されますが、クライアントターミナルウィンドウ領域のどの位置にも容易に移動することができます。
ツールバーは「表示⇒ツールバー」メニューコマンドによって表示したり、非表示にしたりすることができます。
全てのツールバーはカスタマイズ可能で、必要なときのみに配置し、その中のコマンドを通して利用されます。ツールバーを設定するためにはそのコンテキストメニューを開き、「カスタマイズ」コマンドを実行します。

各ツールバーのコマンドを一覧にまとめています。

① 標準ツールバー

ターミナルの設定、操作に関する全体的な操作がこのツールバーにまとめられています。

アイコン	説明
	新しい通貨ペアウィンドウを開きます。このコマンドは通貨ペアのリストを表示します。リストから必要な通貨ペアを選び、新しいチャートを開きます。 「ファイル⇒新規チャート」と「ウィンドウ⇒新規チャート」メニューコマンド、及び「気配値表示」⇒「チャート表示」ウィンドウコンテキストメニューでも同じ操作が可能です。
	チャートグループを操作、管理するメニューです。このメニューから選択したチャートグループを有効化します。チャートグループはこのメニューから削除でき、新しいチャートグループは現在のチャートウィンドウ構成に基づいて保存されます。 ※デフォルトのチャートグループは削除できません。 「ファイル⇒チャートの組表示」でも同じ操作が可能です。
	「気配値表示」ウィンドウを開閉します。このウィンドウには利用可能な通貨ペアの現在の価格が配信されます。このウィンドウでは通過ペアのチャートを開き、注文を発注することができます。 「表示⇒気配値表示」メニューコマンドまたは Ctrl+M でも同じ操作が可能です。
	「データ」ウィンドウを開閉します。価格や配置された分析ツールに関する情報がこのウィンドウに表示されます。 「表示⇒データウィンドウ」メニューコマンドまたは Ctrl+D でも同じ操作が可能です。
	「ナビゲーター」ウィンドウを開閉します。開いている全ての口座、利用可能なエキスパートアドバイザ、インディケータ、スクリプトがこのウィンドウにまとめられています。 「表示⇒ナビゲーター」メニューコマンドまたは Ctrl+N でも同じ操作が可能です。

	「ターミナル」ウィンドウを開閉します。このウィンドウでは注文の発注、口座履歴の閲覧、ニュース受信などができます。 「表示⇒ターミナル」メニューコマンドまたは、Ctrl+T でも同じ操作が可能です。
	「テスター」ウィンドウを開閉します。このウィンドウではエキスパートアドバイザのテスト及び最適化を行ないます。 「表示⇒テスター」メニューコマンドまたは Ctrl+R でも同じ操作が可能です。
	新しい注文を発注します。この操作を実行すると、成行注文または指値注文を発注するウィンドウが表示されます。 「ツール⇒新規注文」メニューコマンド、「気配値表示⇒新規注文」ウィンドウコンテキストメニューコマンド、「ターミナル⇒取引⇒新規注文」ウィンドウコンテキストメニューコマンド、または F9 キーでも同じ操作が可能です。
	メタエディターを起動します。この編集プログラムで、「エキスパートアドバイザ」、「カスタム分析」、「スクリプト」、MQ4 ライブラリの作成及び編集ができます。「ツール⇒メタエディター」メニューコマンドまたは F4 キーでも同じ操作が可能です。
	エキスパートアドバイザを有効化します。このオプションが無効化されていると、チャートに添付されたエキスパートは作動しません。 「ターミナル設定」の「エキスパートアドバイザを有効にする」オプションでも同じ操作が可能です。
	「ターミナル設定」ウィンドウを呼び出します。ターミナルの全ての基本設定はこのウィンドウで行ないます。「ツール⇒オプション」メニューコマンドまたは Ctrl+O でも同じ操作が可能です。
	全画面表示モードを有効化及び無効化します。このオプションが有効の場合、ツールバー及びステータスバーは隠され、全てのサービスウィンドウが閉じられます。クライアントターミナル名、メインメニュー、作業領域（チャート）、チャートウィンドウタブだけが画面上に表示されます。再度この操作を実行すると、ターミナルは前の状態に戻ります。 「表示⇒チャート全画面表示」メニューコマンドまたは F11 キーでも同じ操作が可能です。
	チャートを印刷します。プログラム設定で「カラー印刷」オプションが有効化されていると、チャートは白黒印刷ではなくカラーで印刷されます。 「ファイル⇒印刷」メニューコマンドまたは「チャート」コンテキストメニューの「印刷」コマンドでも同じ操作が可能です。
	印刷前のチャート確認をします。ここで選択したプリンターの設定を行ないます。印刷前に必要なデータ全てが印刷できるか確認できます。 「ファイル⇒印刷プレビュー」メニューまたは「チャート」コンテキストメニューの「印刷プレビュー」コマンドでも同じ操作が可能です。

	ヘルプファイルを呼び出します。このボタンをクリックし、必要なヘルプファイルセクションを開くために、知りたいインターフェイス機能をクリックします。「ヘルプ⇒ヘルプ・トピックス」メニューコマンドまたは F1 キーでも同じ操作が可能です。

② チャートツールバー

チャート及びチャート内に配置するテクニカル分析の設定、操作はこのツールバーにまとめられています。このツールバーには以下の機能が含まれます。

アイコン	説明
	チャートを一連のバーで表示します（バーチャートへの変換）。 「チャート⇒バーチャート」メニューコマンドまたは Alt+1 でも同じ操作が可能です。
	チャートを一連のロウソク足で表示します（ロウソク足チャートへの変換）。 「チャート⇒ロウソク足」メニューコマンドまたは Alt+2 でも同じ操作が可能です。
	チャートを一連の折れ線で表示します（ラインチャートへの変換）。 「チャート⇒ラインチャート」メニューコマンドまたは Alt+3 でも同じ操作が可能です。
	チャートをズームインします。 「チャート⇒ズームイン」メニューコマンド、チャートコンテキストメニューの「ズームイン」コマンド、「+」キーでも同じ操作が可能です。
	チャートをズームアウトします。 「チャート⇒ズームアウト」メニューコマンド、チャートコンテキストメニューの「ズームアウト」コマンド、「-」キーでも同じ操作が可能です。
	既に表示済みの通貨ペアのチャートを全て表示します。
	チャートを最新のバーに自動移動します。このオプションが有効の場合、最新のバーが常にチャートに表示されます。「チャート⇒自動スクロール」メニューコマンドでも同じ操作が可能です。
	チャートの最新のバーの位置をチャートのシフトラベルの位置に移動します。チャートのシフトラベル（チャートウィンドウ上方のグレーの三角形）はマウスでチャートウィンドウの右端から 10%～50%の範囲で水平方向に移動することができます。「チャート⇒チャートの右端移動」メニューコマンドでも同じ操作が可能です。

	テクニカル分析を設定、操作するサブメニューを呼び出します。全ての組み込みテクニカル分析がここにまとめられています。リストから名前を選択し、アクティブなチャートにそのテクニカル分析を配置できます。 「挿入⇒インディケータ」メニューコマンドでも同じ操作が可能です。
	チャートの周期を設定するサブメニューを呼び出します。このサブメニューで周期を選択すると、アクティブなチャートがその周期で表示されます。 チャート周期の切り替えは、「チャート⇒周期設定」メニューコマンド、チャートコンテキストメニューの「周期設定」コマンド、または「周期設定」ツールバーの周期設定ボタンでも同じ操作が可能です。
	定型チャートを設定、操作するサブメニューを呼び出します。このメニューから定型チャートをアクティブなチャートに配置できます。また、アクティブなチャートの新しい定型チャートはアクティブなチャートの構成に基づいて保存され、既存の定型チャートを削除することも可能です。 「チャート⇒定型チャート」メニューコマンドまたはチャートコンテキストメニューの「定型チャート」コマンドでも同じ操作が可能です。

③ ライン等ツールバー

チャート上に配置する「ライン」とグラフィカルオブジェクト（幾何学的図形、サイン、テキスト）は「オジェクト」ツールバーにまとめられています。「十字」と「カーソル」を除く全てのコマンドは「挿入」メニューと重複します。オブジェクトの操作に関する詳細は「オブジェクト」セクションをご覧ください。このツールバーの他のアイコンはグラフィカルオブジェクトで作業するために、またカーソル操作モードを変更するために使われます。

アイコン	説明
	楕円を挿入します。この図形でチャートの種々の領域を選択することができます。 「挿入⇒図形⇒楕円」でもこの図形を挿入することが出来ます。
	三角形を挿入します。この図形でチャートの種々の領域を選択することができます。「挿入⇒図形⇒三角形」でもこの図形を挿入することが出来ます。
	長方形を挿入します。この図形でチャートの種々の領域を選択することができます。「挿入⇒図形⇒長方形」でもこの図形を挿入することが出来ます。
	テキストラベルを追加します。このボタンをクリックし、ラベルを配置するチャート内のポイントを選択します。下記のテキストとは異なり、テキストラベルはチャートではなくチャート画

	面に貼り付けられます。チャートをスクロールしてもテキストラベルは動きません。「挿入⇒テキストラベル」でもチャートにコメントを加えることが出来ます。
	チャートにテキスト（コメント）を追加します。テキストはチャートに直接固定されます。チャートをスクロールすると、テキストも一緒に移動します。 「挿入⇒テキスト」でもチャートにテキスト（コメント）を加えることが出来ます。
	矢印の設定をします。このメニューでチャートに図形チャートサインの追加や配置されたサインを削除することができます。 「挿入⇒矢印」でもチャートにこれらの図形を配置できます。
	十字カーソルが十字モードのとき、チャート画面や分析ツール画面で選択した位置の座標をハイライトすることができます。この機能はアクティブな画面でのみ使用できます。「十字」モードのとき、マウスの左側を押しながらカーソルを動かすと、2 つのポイントをつなげる線が表示されます。これらのポイント間の長さと現在の価格が、この線の 2 番目のポイントの右側に表示されます。この機能は電子定規と言います。カーソルを十字モードに切り替えるには Ctrl+F、マウスホイールでも同じ操作が可能です。
	標準カーソル（選択モード）です。このモードのカーソルでチャートの種々のオブジェクトを選択できます。

④ 周期設定ツールバー

このツールバーでチャートの周期設定の切り替えを行います。ツールバーのボタンをクリックするとアクティブな画面のチャート周期が変更されます。そのすぐ後に選択された通貨ペアと周期のデータアップロードが始まります。

左から M1（1 分足）、M5（5 分足）、M15（15 分足）、M30（30 分足）、H1（1 時間足）、H4（4 時間足）、D1（日足）、W1（週足）、MN（月足）の順になります。

第 3 章　MetaTrader4 での取引（売買）方法

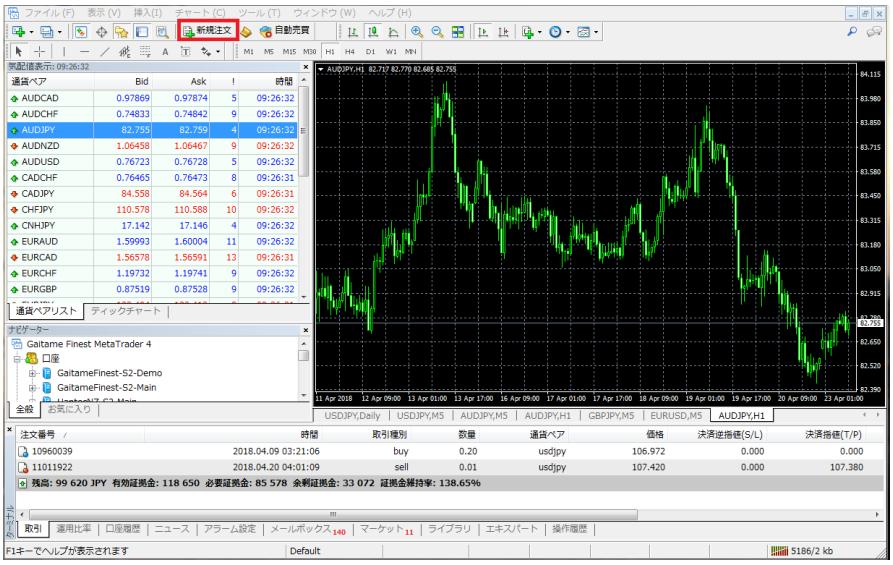
それでは実際に取引をスタートする前に、MetaTrader4 での発注方法について確認しておきましょう。MetaTrader4　では通常の「成行注文」に加えて、「指値注文」、「OCO」注文、「IFDOCO」注文といったほとんどの発注方法に対応しています。

チャート機能がいくら使えても、発注方法がわからなければ十分に MetaTrader4 を使いこなすことが出来ませんので、この機会にしっかりとマスターしておきましょう。

MetaTrader4 での発注方法の基本

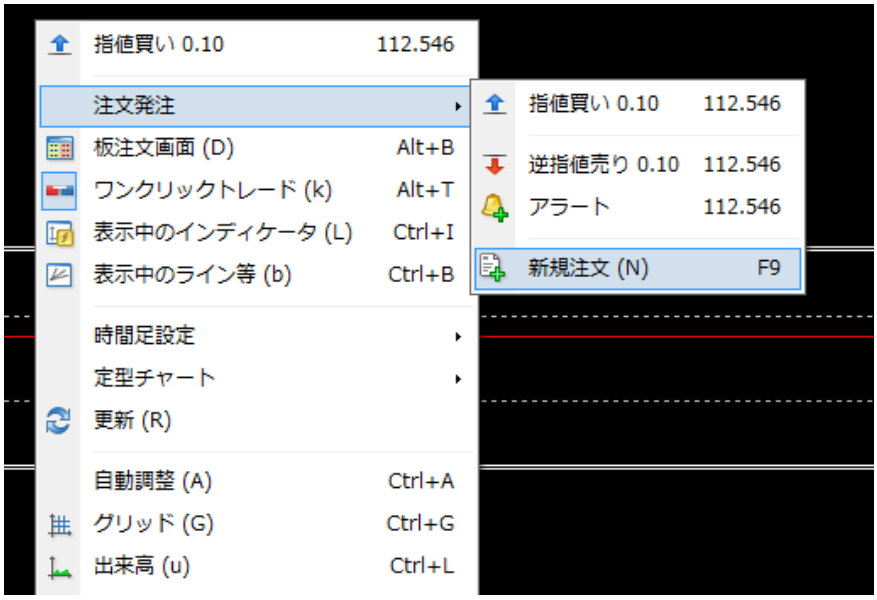
MetaTrader4 での新規の注文の出し方は 4 種類の方法があります。

①メニューの「新規注文」ボタンからの発注



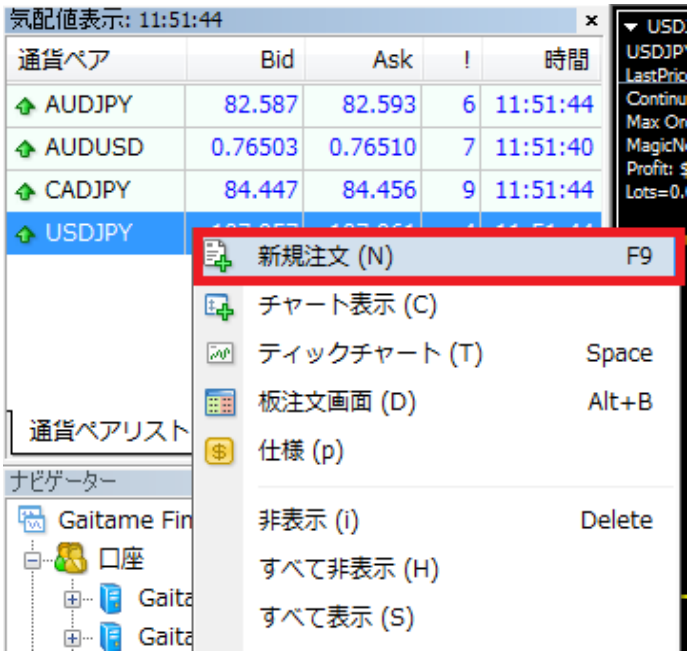
メニューバーの「新規注文」ボタンを押すと、1 クリックで「注文の発注」ウィンドウが開きます。

②取引チャート上からの発注



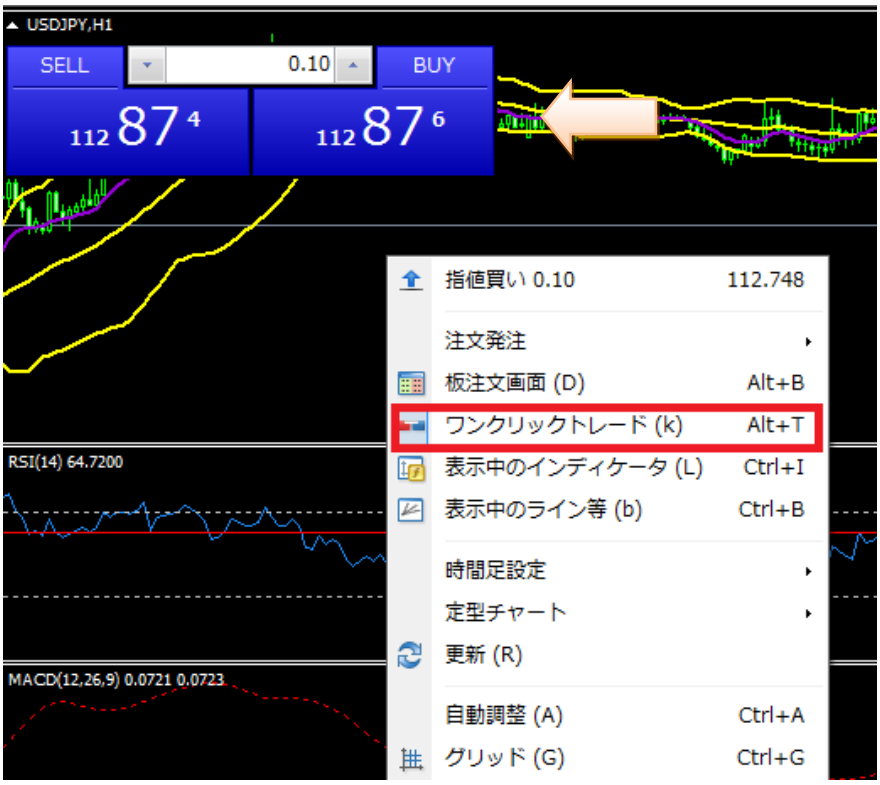
「取引チャート上」で「右クリック」をするとポップアップが開きますので一番下の「新規注文」を選択します。
「オーダーの発注」ウィンドウが開きます。

① 「気配値表示」ウィンドウからの発注



「気配値表示ウィンドウ」で「右クリック」をすると、ポップアップが開きますので一番上の「新規発注」を選択すると「オーダーの発注」ウィンドウが開きます。

② 「ワンクリックトレード」での発注



チャート上で「右クリック」をするとポップアップが開きます。「ワンクリックトレード」を選択するとチャート画面左上にレートパネルが表示されます。又はチャート画面左上の▽ボタンをクリックします。

※ワンクリックトレードは成行注文で、クリック後に即時約定します。

新規注文

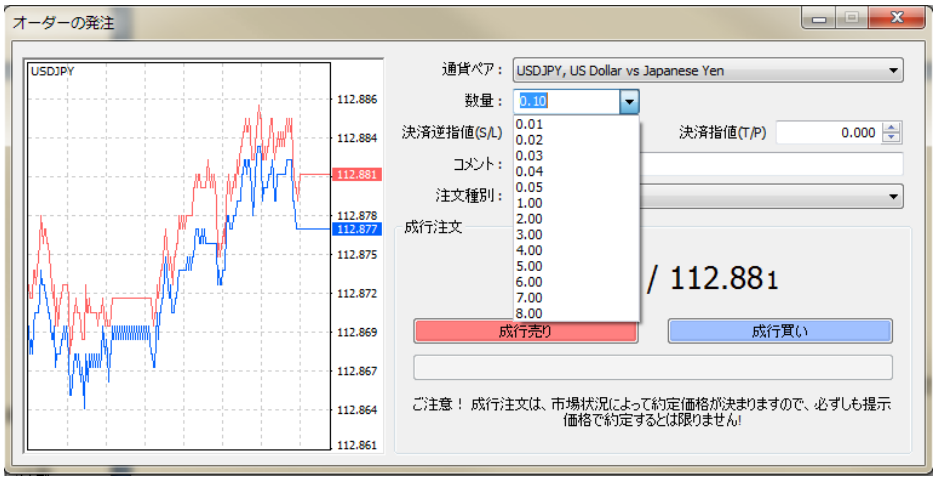
①成行注文

外為ファイネスト MetaTrader4 の成行注文は、お客様からの注文を当社サーバーが受け付けた時点でカバー先に発注され、カバー先の配信レートで約定されます。実際の約定レートとの間に差（スリッページ）が生じることがありますのでご注意ください。

■成行注文

項目名	コメント
通貨ペア	売買する通貨ペアを確認します。
数量	0.01 ロット＝1,000 通貨単位 0.1 ロット＝10,000 通貨単位 1.00 ロット＝100,000 通貨単位
コメント 注文種別	通常は記入する必要はありません。 取引理由などを記録したいときに入力します。 「成行注文」が選択されていることを確認します。

発注を行う通貨ペアのチャートを選択し「新規注文」ボタンを押すと、「オーダーの発注」ウィンドウが画面中央にポップアップで表示されます。



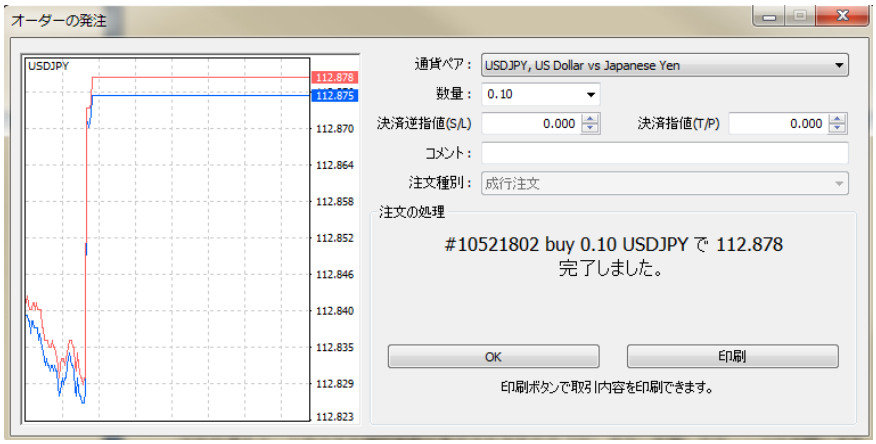
・通貨ペア：通常は選択した通貨ペアが表示されていますが、右側の▼を押すとプルダウンで他の通貨ペアを選択することが出来ます。

・数量　：右側の▼を押すとプリセットされた数量が出ますので、こちらから選択するか、それ以外の数量はテンキーから数量ウィンドウに直接入力します。

※MetaTrader4 では、1.0 は 10 万通貨になり、1 万通貨を発注したいときは「0.1」となります。
発注数量を間違わないよう慎重に確認してください。

入力した値が正しいか確認し（上の画面では、「USDJPY」を 0.1 ロット（1 万ドル））、売りの場合は赤色の「成行売り」、買いの場合は青色の「成行買い」ボタンを押します。

この時、画面のように「112.870 / 112.873」という 2 ウェイプライスで表示されますので、売りの場合は左側のプライスを、買いの場合は右側のプライスを確認してからそれぞれのボタンを押します。



注文が通ると、このような確認画面が表示されますので「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

発注結果を確認する。

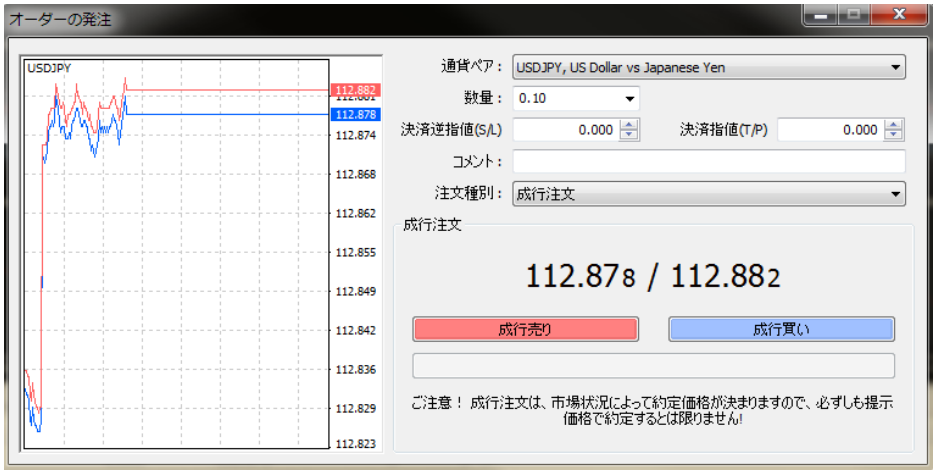
次に「ターミナル」の「取引」タブを選択して、ポジションを確認します。

注文番号	時間	取引種別	数量	通貨ペア	価格	決済逆指値(S/L)	決済指値(T/P)	価格	スワップ	損益
10521802	2018.01.05 06:46:07	buy	0.10	usdjpy	112.878	0.000	0.000	112.874	0	-40
残高: 1 535 535 JPY 有効証拠金: 1 535 495 必要証拠金: 45 151 余剰証拠金: 1 490 344 証拠金維持率: 3400.78%										-40

「112.878」で USDJPY の buy（買い）ポジションが、数量 0.10 ロット（1 万ドル）成立しているのが確認できます。「数量」の入力ミスに十分ご注意ください。

②新規での指値注文、逆指値注文、IFDOCO 注文

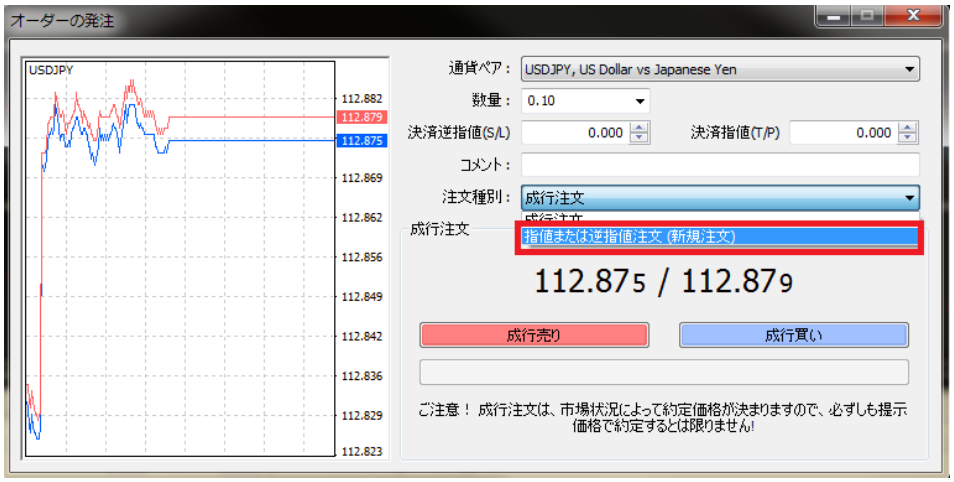
先ほどの「成行注文」と同様に、新規注文ボタンを押して「オーダーの発注」ウィンドウを表示させます。



・通貨ペア、数量を確認します。

・「注文種別」の右端の▼を押し、「指値又は逆指値（新規注文）」を選択します。

※通常は「成行注文」になっています。



指値または逆指値(新規注文)を入力する項目が出ますので注文種別の▼を押して、①プルダウンメニューを表示させ、

・Buy Limit（買い指値）

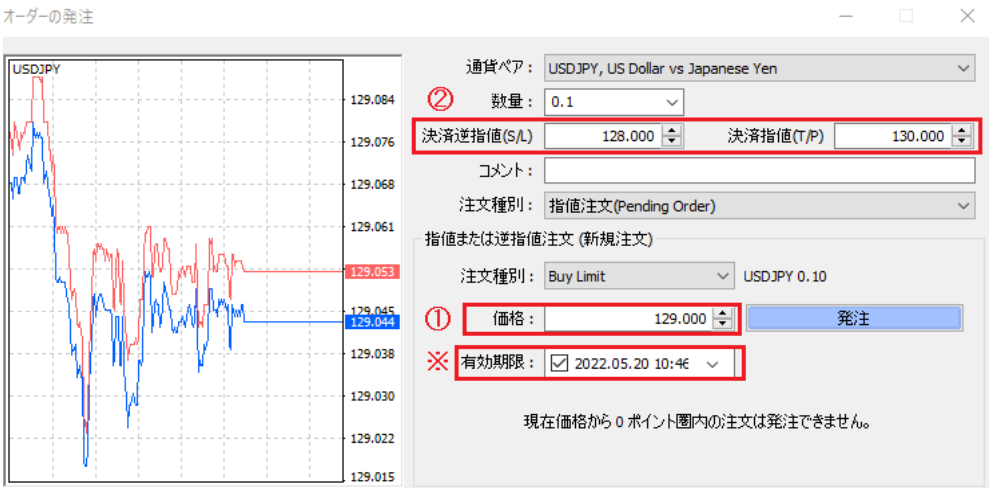
・Sell Limit（売り指値）

・Buy Stop（買い逆指値）

・Sell Stop（売り逆指値）

の 4 種類から選択します。

次に価格のところに新規指値、決済逆指値（S/L）のところにストップロス注文、決済指値（T/P）のところに利食注文の値を入力します。



ここでは、価格（129.000）、決済逆指値（128.000）、決済指値（130.000）のオーダーを入力して、IfDone オーダー（新規注文 129.000）がついたら、OCO オーダー（ストップロス注文 128.000、利食注文 130.000 が同時に出される、IFDOCO（イフ・ダン・オー・シー・オー）注文の形になります。

「有効期限」にチェックを入れると注文の有効期限を設定できます。有効期限を設定しない場合、自動で 90 日に設定されます。

入力内容を確認したら、「送信」ボタンを押します。

【新規注文の有効期限について】

・注文の有効期限は最長 90 日です。

・有効期限を設定しない場合、自動で 90 日に設定されます。

・発注ウィンドウの有効期限はサーバー時間で設定いただく必要がございます。

　　サーバー時間：　米国標準時の場合　GMT+2　　米国夏時間の場合　GMT+3

・有効期限を発注時刻から 10 分未満に設定することはできません。

・有効期限を過ぎた新規注文は、自動でキャンセルされます。

確認画面が表示されますので「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

注文番号	時間	取引種別	数量	通貨ペア	価格	決済逆指値(S/L)	決済指値(T/P)	価格	スワップ	損益
残高: 1 535 525 JPY 有効証拠金: 1 535 525 余剰証拠金: 1 535 525										0
10521812	2018.01.05 06:56:41	buy limit	0.10	usdjpy	112.800	112.500	113.000	112.882		

「ターミナル」の「取引」画面を見ると、USDJPY が 0.1 ロット（1 万ドル）で新規注文 112.800、ストップロス注文 112.500、利食い注文 82.000 円で発注されているのが確認できます。

IFD（イフダン）オーダーのみの場合は、決済指値の値を入力せずに送信ボタンを押します。

IFD オーダーの例
指値注文　112.800
決済逆指値　112.500
決済指値　0.000
と入力します。

決済注文

①成行決済

次に、先ほど成立した USDJPY のポジションを決済してみましょう。

最初に、「ターミナル」の「取引」タブを選択して、ポジションを確認して、

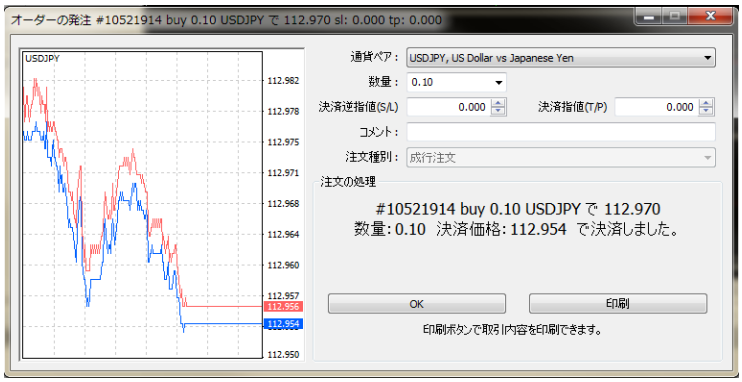
・決済するポジションをクリックして選択します。（濃い青色になります）

・選択したポジションの上で「右クリック」を行うと、メニューが表示されます。

・上から 2 つ目の「決済注文」をクリックします。

「オーダーの発注」ウィンドウがポップアップされますので、黄色の「成行決済」ボタンを押します。

この時決済売りの場合は、2 ウェイプライスの左側の価格が、決済買いの場合は右側の価格が適用されます。



決済が完了すると、確認画面が表示されますので「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

取引履歴を確認する場合は、「ターミナル」の「口座履歴」タブを選択すると取引履歴が確認できます。

②指値、逆指値での注文の決済方法

次に、成行注文で約定したポジションに、指値（利食い）注文、逆指値（ストップロス）注文、そして OCO で指値と逆指値の決済注文を入れる方法をご説明します。

まず最初に、ターミナルの「取引」画面から

・変更するポジションをクリックして選択します。（濃い青色になります）

・選択したポジションの上で「右クリック」を行うと、メニューが表示されます。

・上から3つ目の「注文変更または取消」をクリックします。

「オーダーの発注」ウィンドウがポップアップされますので、各項目を入力します。

決済逆指値（ストップロス注文）

決済指値 （利益確定注文） を入力します。

※　この時「下段にコピー」の赤色又は青色のボタンを押すと、そのプライスがコピーされます。

「現在値との差」の値に、損切幅や利食い幅を設定しておくと、ワンクリックで入力できるので便利です。

今回はストップロスを 112.800、利食いを 113.000 に設定してみましょう。

入力後「建玉＃〇〇〇の S/L を〇〇　T/P を〇〇に変更する」ボタンを押します。

※指値の値段が間違っているとボタンが押せません。

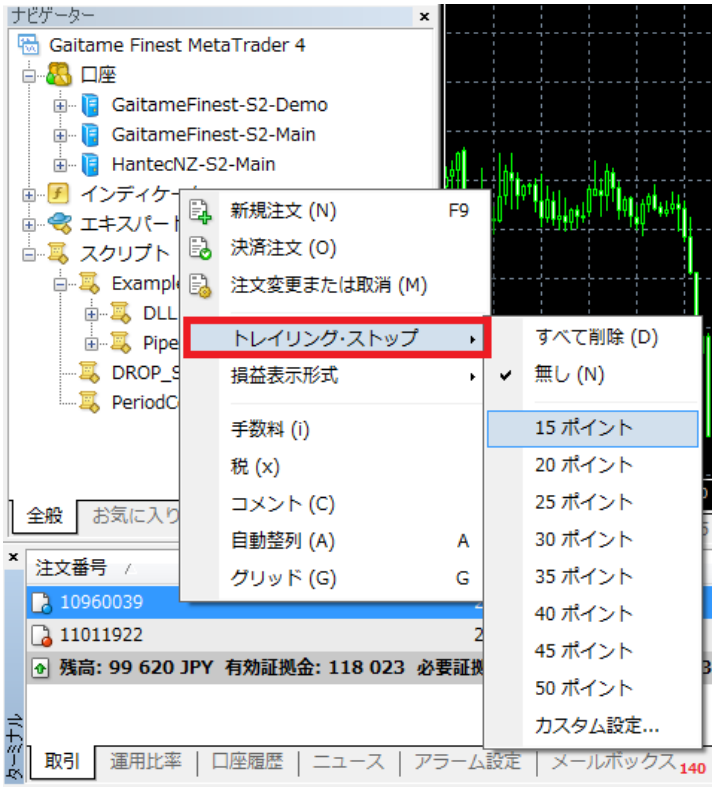
確認画面が表示されますので「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

「ターミナル」の「取引」画面で確認すると、先ほどの buy ポジションに、112.800 の逆指値（ストップロス）注文と、113.000 の指値

（利食い）注文が反映されています。

③トレイリングストップ

MetaTrader4 に標準の「トレイリングストップ」注文を使うと設定した条件でストップロス（決済逆指値）の値を相場の動きに連動することができます。



最初に、ターミナルの「取引」画面から

・変更するポジションをクリックして選択します。（濃い青色になります）

・選択したポジションの上で「右クリック」を行うと、メニューが表示されます。

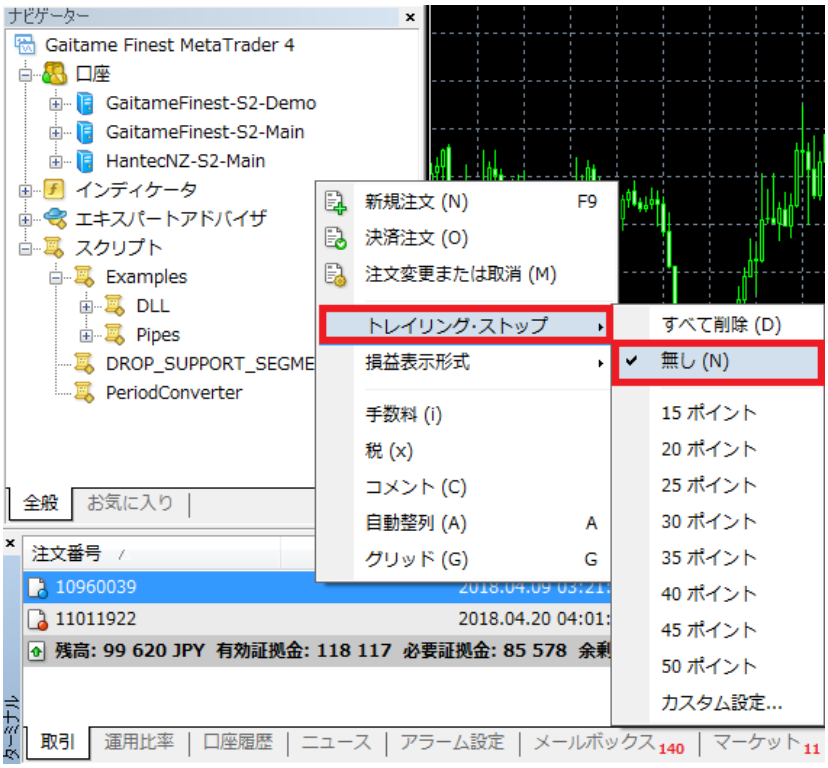
・上から4つ目の「トレイリングストップ」をクリックします。

・さらにメニューが展開しますのでトレイリングストップの値を選択します。

※外為ファイネスト MetaTrader4 では 1point＝0.1pip となります。

※この時「カスタム設定」を選択すると任意の値でトレイリングストップの幅を設定できます。

トレイリングストップ注文の取消方法



トレイリングストップを設定した時と同様にターミナルの「取引」画面から

・変更するポジションをクリックして選択します。（濃い青色になります）

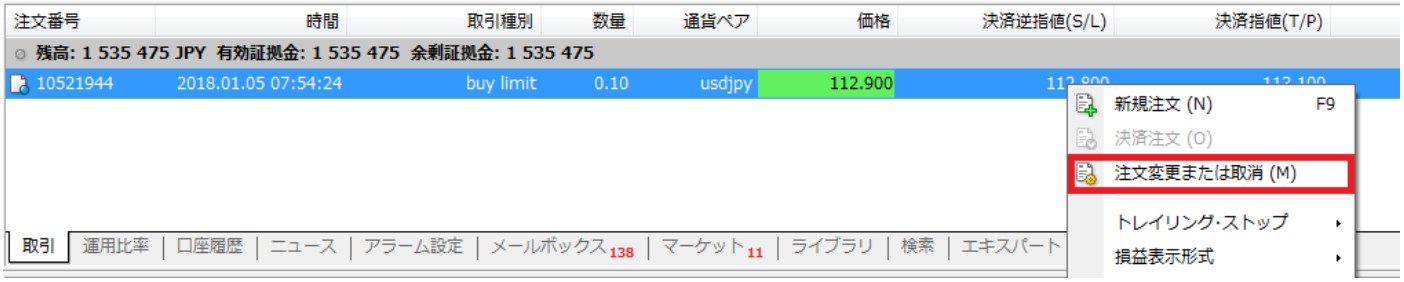
・選択したポジションの上で「右クリック」し、メニューを表示します。

・上から4つ目の「トレイリングストップ」をクリックしメニューが表示されたら、上から 2 つ目の「無し」を選択しクリックします。

【注意】トレイリングストップ注文は、MetaTrader4 が起動している場合のみ機能します。 仮にトレイリングストップ注文後、注文の S/L 決済逆指値欄に決済値が表示された段階で、MetaTrader4 を終了すると、サーバー側にはその時点における決済値のみ保存され、その値で約定します。

④注文の取消

IFDOCO 注文を取り消してみましょう。

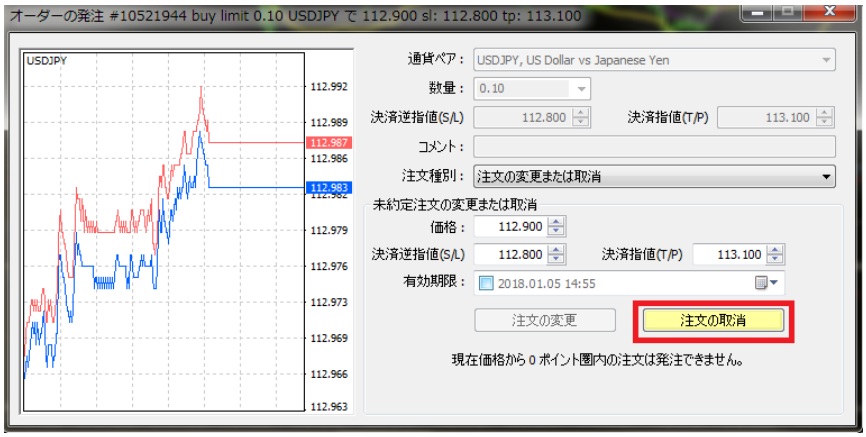


最初に、ターミナルの「取引」画面から

・変更するポジションをクリックして選択します。（濃い青色になります）

・選択したポジションの上で「右クリック」を行うと、メニューが表示されます。

・上から3つ目の「注文変更または取消」をクリックします。



「オーダーの発注」ウィンドウがポップアップされたら、黄色の「注文の取消」ボタンを押します。

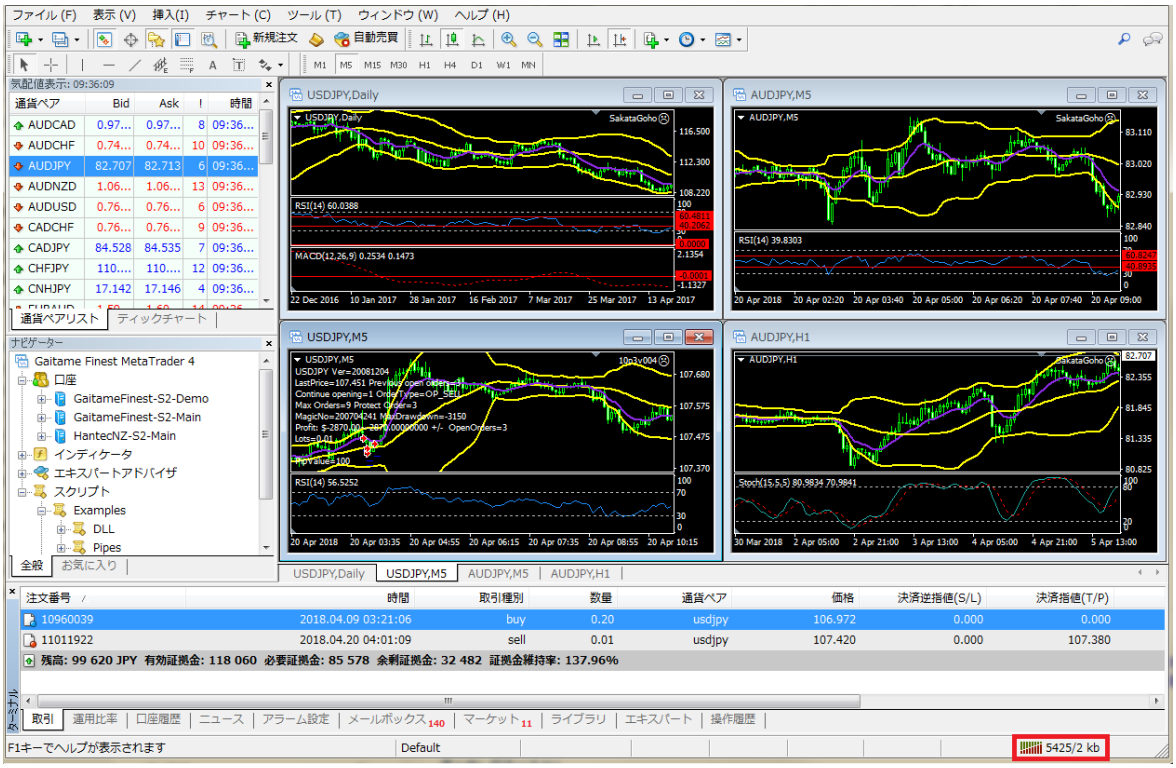
確認画面が表示されますので「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

「ターミナル」の「取引」画面で先ほどのオーダーが消えていれば取り消しは完了です。

第 4 章　チャートの基本操作（MetaTrader4 の基本を覚えよう）

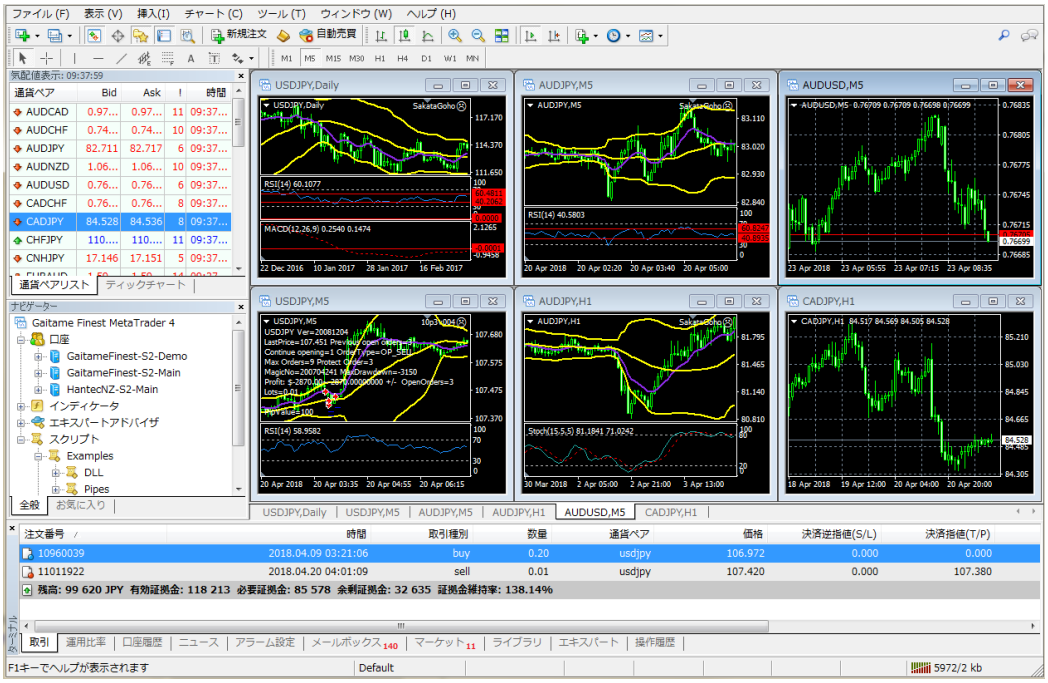
チャートの基本操作

この章では実際にメニューを操作してチャートを作成することにより MetaTrader4 の基本的な操作方法をマスターしていきます。



インストール直後の MetaTrader4 の画面はデフォルト（初期値）でこのようになっていると思います。

まずこの時点で確認してほしいところは、右下の□で囲んだ部分の数字（〇〇／〇kb）が動いているかということです。
この部分に「回線不通」というメッセージが出ている場合は、デモ口座の期限切れなどの理由で「オフライン」になっており、チャートそのものが動いていませんのでご注意ください。
正常に MetaTrader4 が動いていましたら、早速 MetaTrader4 のチャート操作をスタートしましょう！



こちらのチャートをご覧ください。

インストール直後の画面とはずいぶん違いますね。

今回は、実際にこのようなチャートを作りながら、チャートの基本操作を練習していきましょう。

このように MetaTrader4 では、通貨ペアや、時間軸はもちろん、チャートに表示させるインディケータ（MetaTrader4 で使うテクニカル指標）の色や、画面のデザインなども自由に変えることが出来ます。

自分だけのオリジナルチャートが作れるように、チャート操作をしっかりとマスターして頂ければと思います。

チャート基本操作の習得は次のような流れで進めていきます。

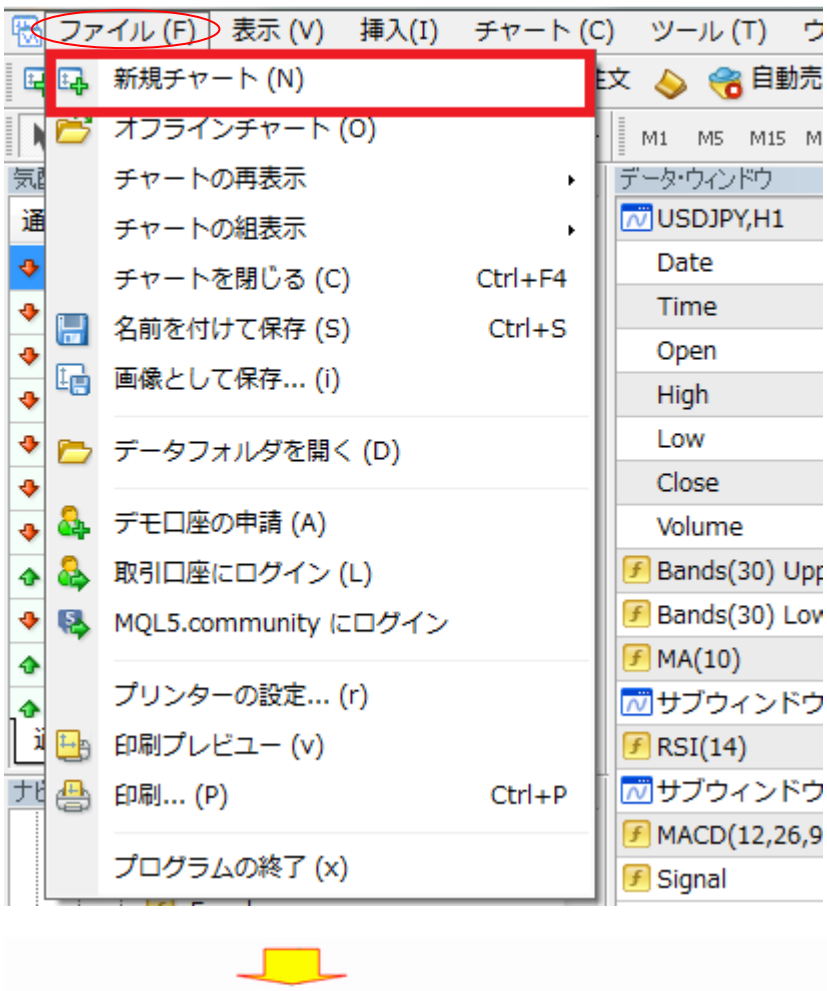
- 新規チャートの追加
- ウィンドウの分割（チャートの整列）
- チャートの銘柄変更
- チャートの種類の変更
- タイムフレーム（時間軸）の変更
- チャートの拡大・縮小（ズーム機能）

についてです。

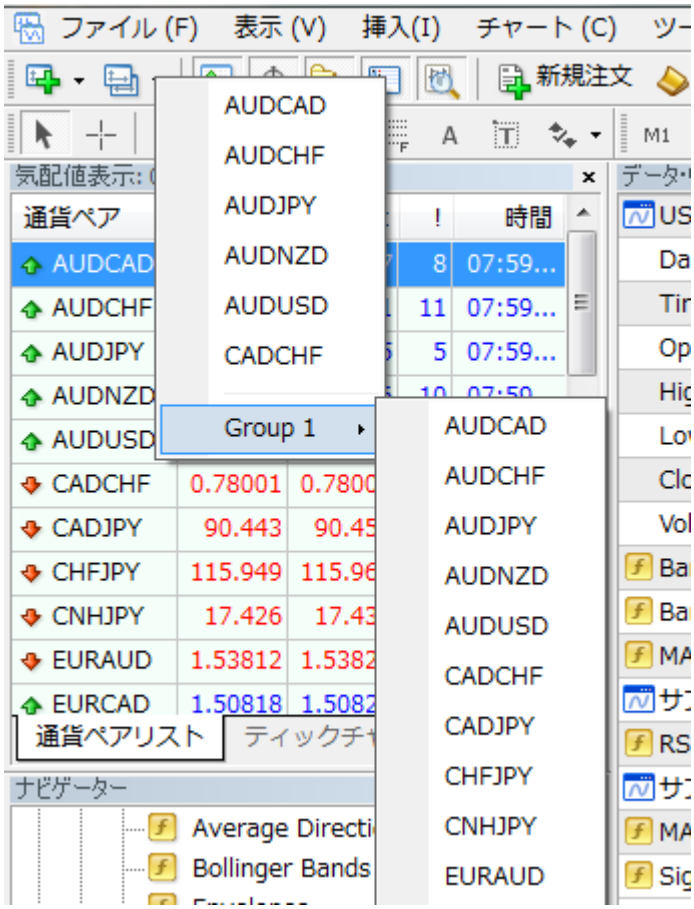
では早速進めていきましょう。

①新規チャートの追加

最初にインストール直後の画面に新規チャートを追加してみましょう。



メニューから「ファイル」→「新規チャート」の順にマウスをクリックします。



通貨ペアのポップアップが開きますので、一番上の「AUDCAD」を選択してみましょう。

中央に AUDCAD の 1 時間チャートが追加されました。

②ウィンドウの分割（チャートの整列）

チャートを追加した状態では、中央に複数のチャートが重なって表示されていますので、これをきれいに整列させましょう。

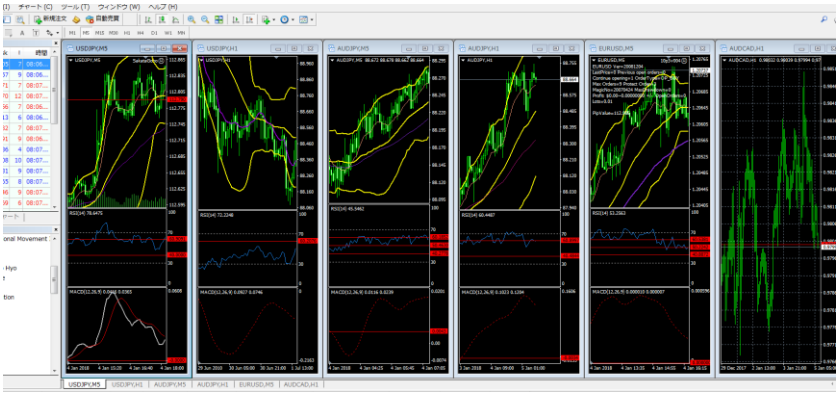
メニューバーの「ウィンドウ」の上でマウスをクリックし、プルダウンメニューを開きます。

マウスを「垂直分割」の上に動かして、クリックします。

すると下の様にチャートがきれいに 6 分割で整列されます。

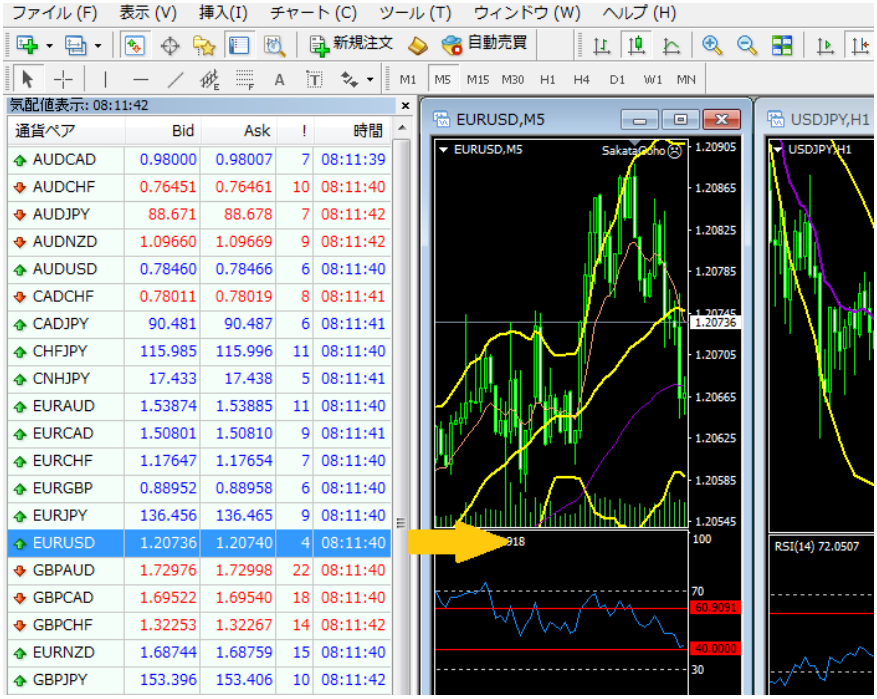
③　チャートの銘柄変更

次に先ほど6つに整列したチャートの銘柄を変更してみましょう。



最初に左側の通貨ペアのウィンドウ（気配値ウィンドウといいます）が小さくて見づらいので、→の境界部分を右に、↓の境界部分を下にドラッグして「気配値ウィンドウ」を拡大してみましょう。

このような感じで、「気配値ウィンドウ」が見やすくなりました。



この状態で、上の段の左端を「EURUSD」に変更します。
最初に、「変更するチャートを選択」します。左上の USDJPY のチャートになります。（上図）
次に、「気配値ウィンドウ」の「EURUSD」の上でマウスをクリックした状態で先程の「USDJPY」のチャートの上にドラッグします。（左図）

簡単に通貨ペアが変わりましたね。

④ チャートの種類変更・タイムフレーム・チャートの拡大・縮小チャートの種類変更　※MT4 では「バーチャート」「ロウソク足」「ラインチャート」の3種類があります。

次は、チャートの種類の変更です。

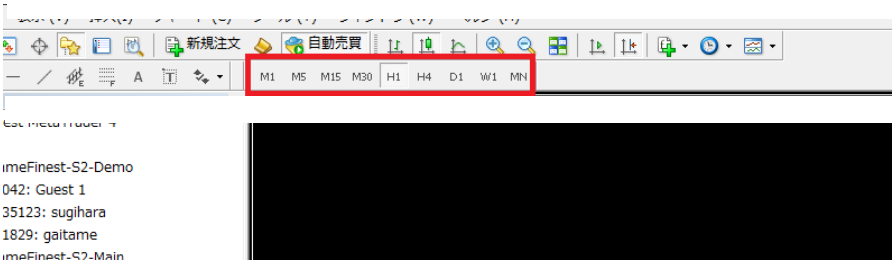
先程のチャートは、「ロウソク足（キャンドルチャート）」と「バーチャート」が混じっているので、全てのチャートを「ロウソク足」に変更します。（チャートタイプの変更）

変更するチャートを選択した状態で、真ん中の「ロウソク足」のアイコンを押します。

※左は「バーチャート」、右は「ラインチャート」への変更となります。

⑤　タイムフレーム（時間軸）の変更

全てのチャートをロウソク足に変更したら、次は「チャートの時間軸」を 1 時間足で統一します。

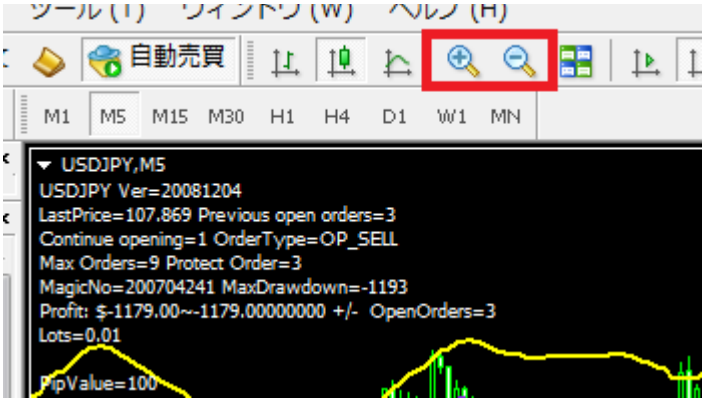


ツールバーの「H1」を押すと、1時間チャートに変更されます。

M は分足で、左から「1 分、5 分、15 分、30 分、そして 1 時間、4 時間（H4）、日足（D1）、週足（W1）、月足（MN）」と9つの時間軸に変更できます。

⑥チャートの拡大・縮小（ズーム機能）

最後に〇で囲んだ「虫眼鏡アイコン」を操作してチャートの大きさを整えます。



※　ロウソク足を選んでいるのに、バーチャートに見えることがあります。
　　そのような場合は、まずはこのズームボタンで操作してみてください。

以上でチャートの基本操作は終了です。

第 5 章インディケータとテンプレート

MetaTrader4 に標準装備されているインディケータの使い方

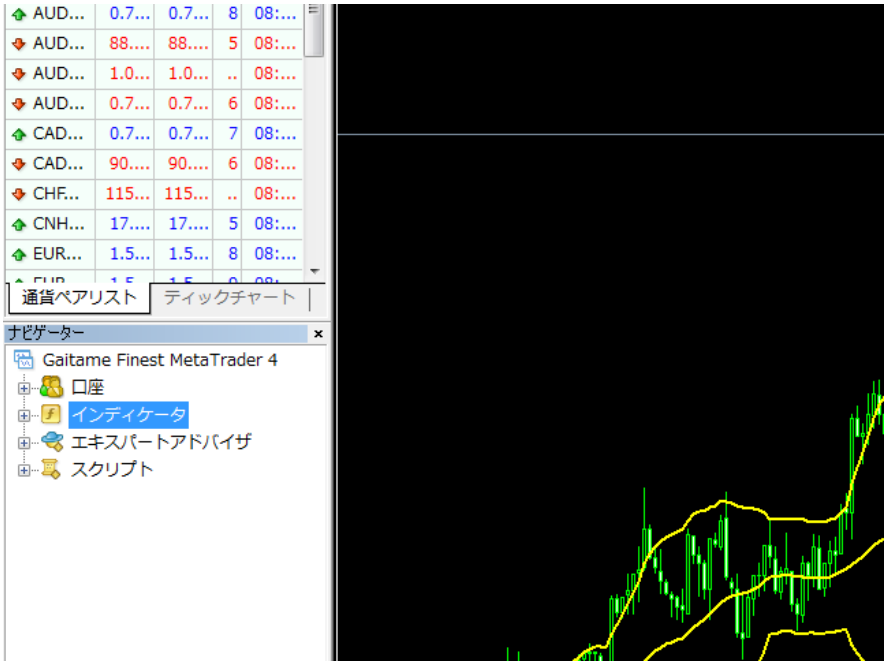
ここまでの作業で、MetaTrader4 の基本的なチャート操作についてはマスターできたと思います。
ここからは、MetaTrader4 に標準装備されている「インディケータ」という便利なテクニカルツールを追加して実際にいろいろなチャートを作っていきたいと思います。

MetaTrader4 には 50 のインディケータが標準装備されています。
これだけでも十分、テクニカル分析に活用することが出来ますが、オリジナルインディケータを追加し更に高度なチャートシステムを構築することも可能です。

今回は、ストキャスティクス（Stochastic Oscillator）と移動平均線（Moving Average）を使って、インディケータの追加と削除をマスターしましょう。

① インディケータの追加方法

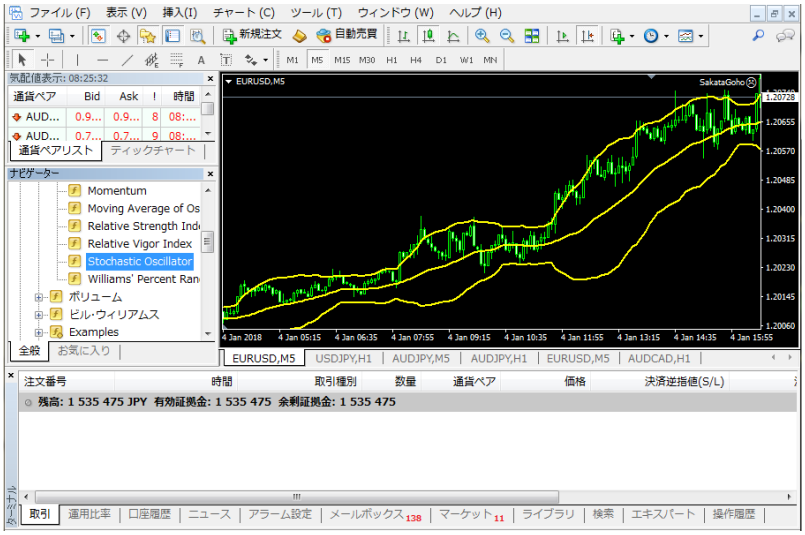
最初に EURUSD のチャートを選択し〇で囲んだ「最大化ボタン」を押してチャートを拡大します。



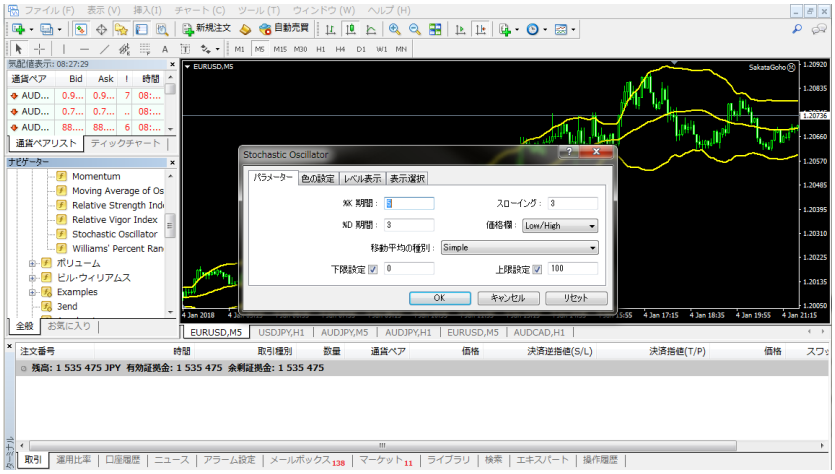
チャートには黄色い「ボリンジャーバンド」が表示されていると思います。

※表示されていない場合も、このまま読みすすめていただけます。
まずはこのチャートに「ストキャスティクス　インディケータ」を追加してみたいと思います。

左側のナビゲーターウィンドウの「インディケータ」の「＋」の部分を押して展開します。



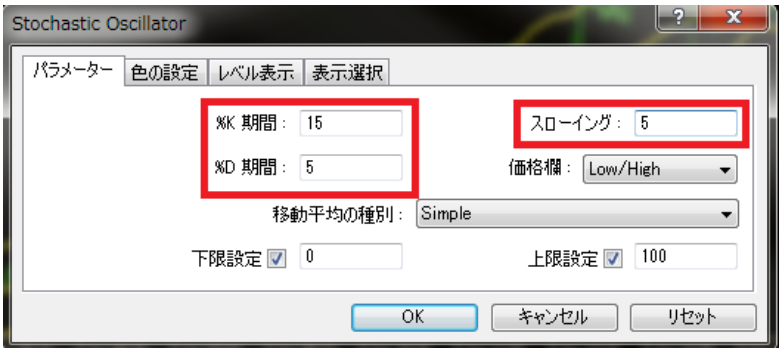
「Stochastic　Oscillator」を探し（アルファベット順に並んでいます）、マウスで選択しチャート上にドラッグします。



チャート上に、ポップアップウィンドウが開きます。
通常このままの設定値（MetaTrader4 ではパラメーターといいます）で問題なければそのまま「OK」を押しますが、このときパラメーターを変えることによりオリジナルのセッティングが可能になります。

今回は、%K period に 15、
% Dperiod と Slowing に 5 と入力します。

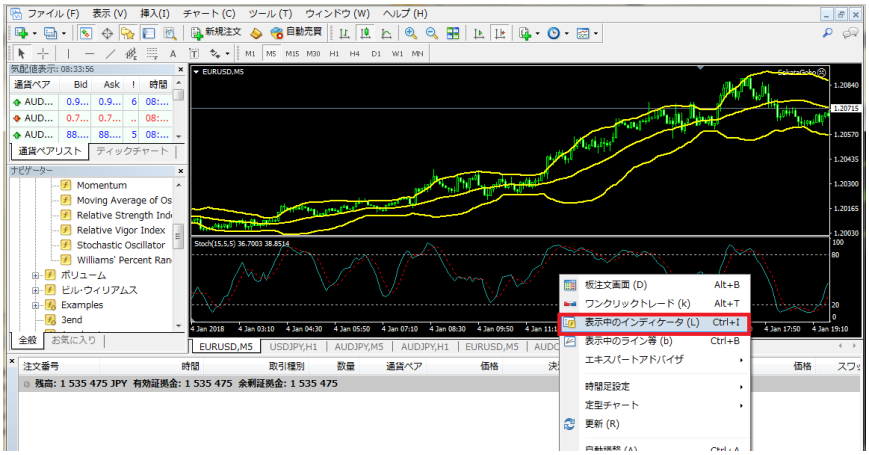
入力後 「OK」を押します。
※スローストキャスティクスとは通常のストキャスティクスよりも反応を落としたもの（Slowing の値を入力することで設定できる）



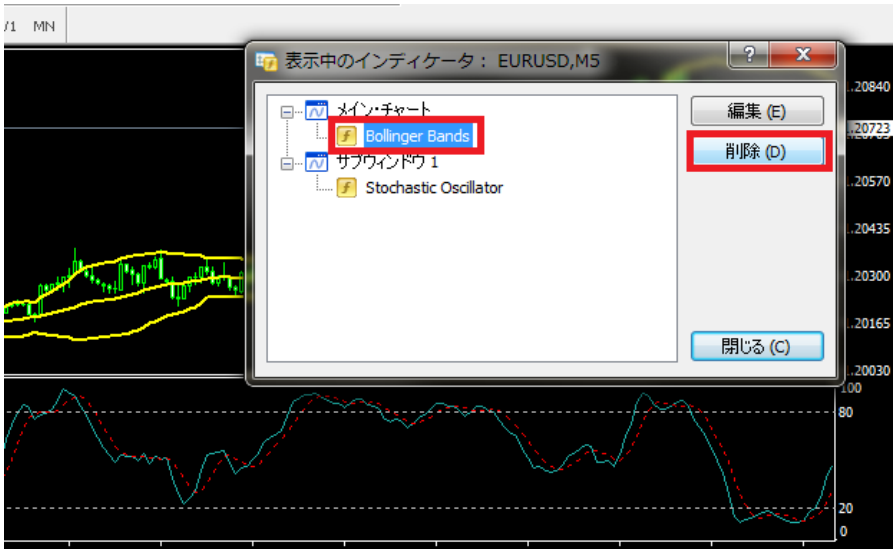
ストキャスティクスがチャートの下段（サブウィンドウといいます）に表示されました。

インディケータの中には今回のストキャスティクスのようにサブウィンドウに表示されるものと、移動平均線のようにメインウィンドウに表示されるものがありますが基本的な操作方法やパラメーターの変更方法は同じになります。

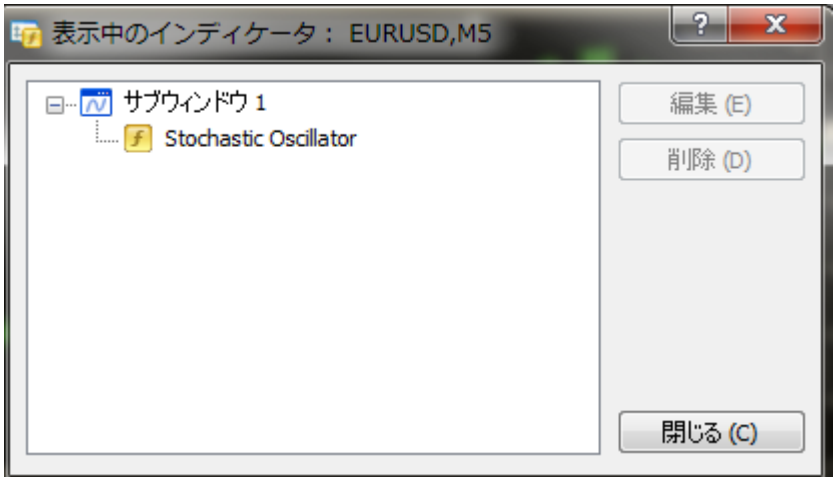
②インディケータの削除方法



画面のチャート上でマウスの「右クリック」をすると、ポップアップが開きますので、「表示中のインディケータ」を選択しクリックします。



ポップアップウィンドウが開きますので「Bolinger Band」をマウスで選択し「削除」ボタンを押します。



ポップアップウィンドウの中から
「Bolinger Band」が消えているのを確認し、「閉じる」ボタンを押します。

メインウィンドウから先ほどのボリンジャーバンドが消えていれば OK です。

これでインディケータの追加と削除は終了です。

左側のナビゲーターに表示されるインディケータの基本操作は全て同じですので、いろいろとお試しください。

テンプレートを活用してオリジナルチャートを保存する

ここまでチャートの基本的操作、そしてインディケータのセッティング等を解説してきました。

MetaTrader4 を使うと、いろいろなチャートが作れると思う反面、毎回チャートを新しく作るたびに、足形や、パラメーターのセッティングなどを設定するのは少し面倒だなと思われたことでしょう。

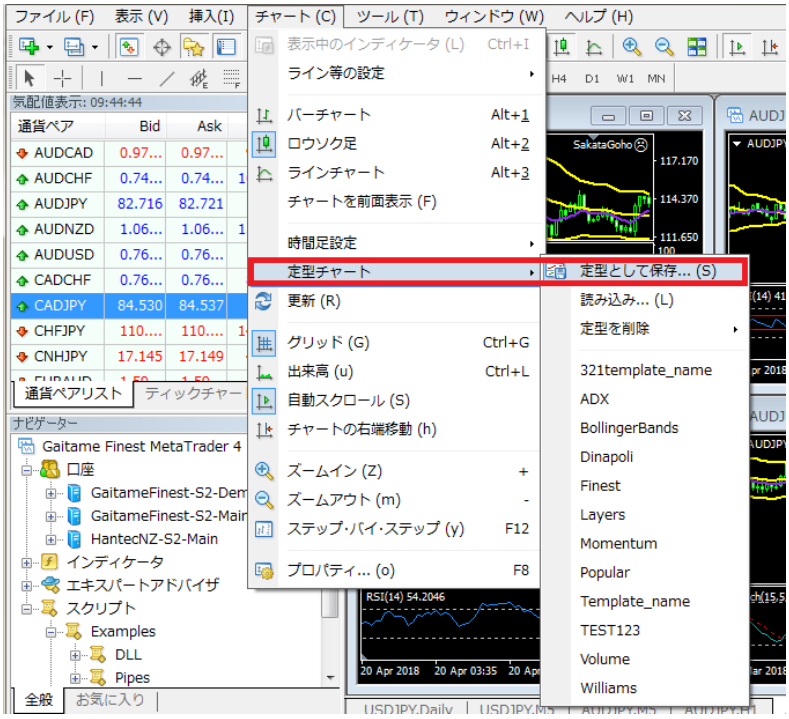
ご安心ください、MetaTrader4 には手塩にかけて作ったオリジナルチャートを他の通貨ペアにすぐに反映できる「テンプレート」という非常に便利な機能があります。

いくつでも独自のチャートを作った場合でも、テンプレートとして保存することにより、瞬時にお気に入りのチャートを表示することができます。

複雑な設定をした場合など、毎回チャートのパラメーター設定を変えるのは大変ですので、オリジナルチャートを作った時は「テンプレートとして保存」しておくことをおすすめします。

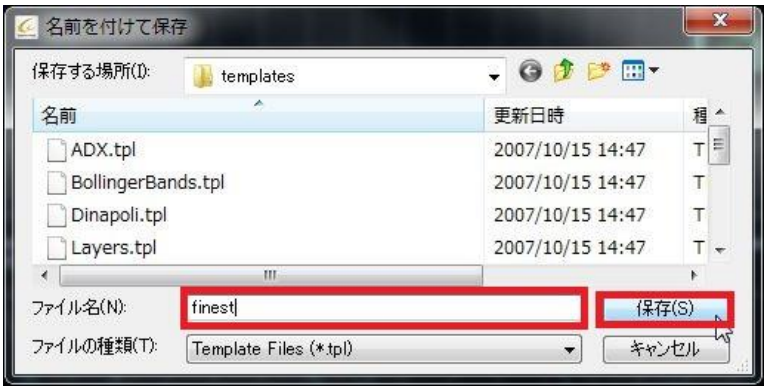
それでは先程作ったチャートをテンプレートとして保存してみましょう。

① テンプレートの保存



まずツールバーメニューから「チャート」を選択します。

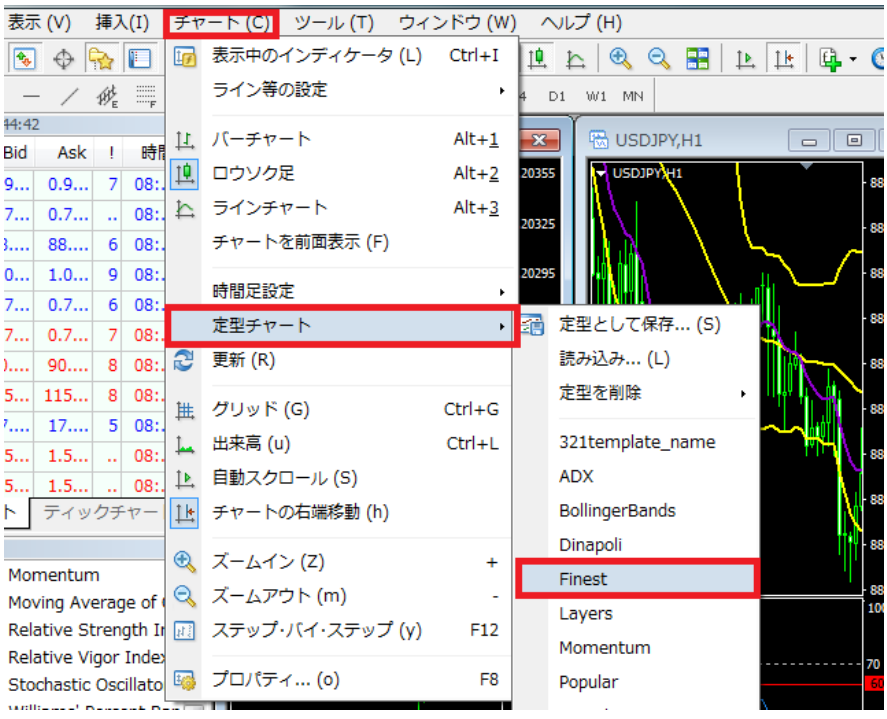
プルダウンメニューが開きますので、「定型チャート」をクリックします。
次にメニューが開きますので「定型として保存」を選択しクリックします。



「名前をつけて保存」というポップアップが開きますのでファイル名に今回は「finest」と入力し、「保存」ボタンを押します。

②テンプレートを他のチャートに反映する

保存が完了したら、右上の「元に戻す」ボタンを押して、6分割の画面に戻します。そして6分割の形に戻りましたら、全てのチャートに先程の「finest」テンプレートを反映させていきます。



ツールバーメニューから「チャート」をクリックすると、プルダウンメニューが開きますので、「定型チャート」を選択します。
さらに横にメニューが開きますので「finest」という名前を選択しクリックします。

チャートを選択し上記の手順を繰り返すことで、全てのチャートに「ストキャスティクス 15-5-5」が反映することができます。

6 つの通貨ペアのチャートに、先ほど作った「ストキャスティクス 15-5-5」が反映されました。
このようにテンプレートを作っておけば、通貨ペア別や時間足別など、独自のチャートをすぐにトレードに役立てることが可能です。

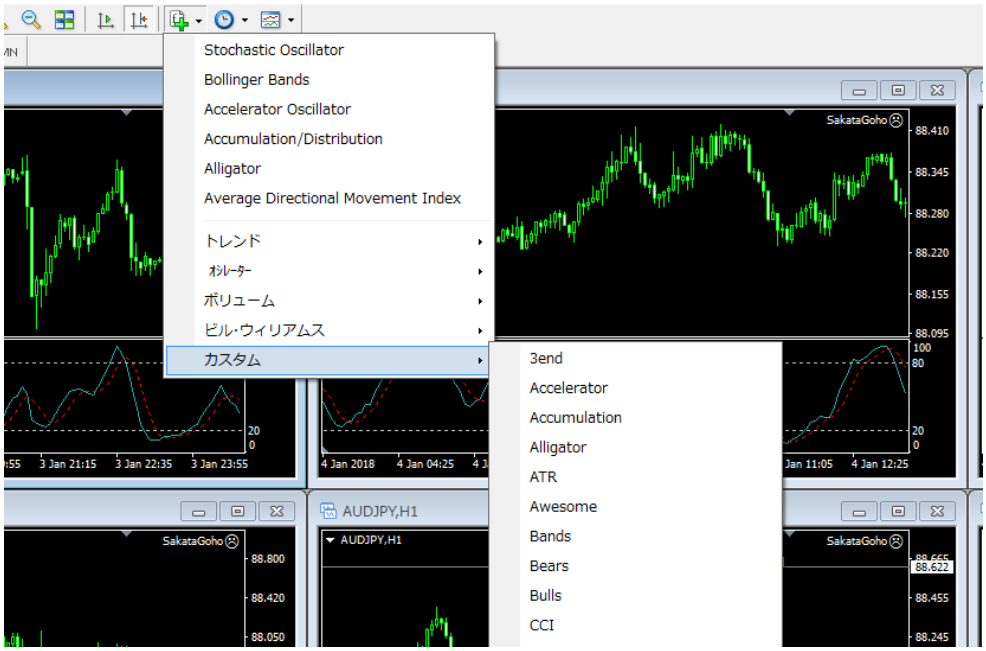
カスタムインディケータの活用

①カスタムインディケータとは

ここまで、MetaTrader4 の基本操作、インディケータの表示、テンプレートでのチャートの保存方法について進めてきました。

今回は、いよいよ MetaTrader4 のチャートソフトとしての拡張性を高めるためのツール（カスタムインディケータと呼びます）について詳しく説明してみたいと思います。

MetaTrader4 で使用するインディケータには、標準インディケータ「インディケータ」と「カスタムインディケータ」の2種類があります。



先に説明しましたように、代表的なテクニカルツール（例えば、RSI や、移動平均線、ストキャスティクス、MACD、ADX など）はナビゲーターの「インディケータ」で網羅されています。
また、各インディケータは「パラメーター」という細かな設定が可能で、期間などの設定に加えて線の太さや色などを変えることも可能です。

今回詳しく取り上げるのは、カスタムインディケータ「Custom Indicators」についてです。

こちらは、「ナビゲーター」ウィンドウの「ナビゲーター」を展開して表示したものです。

インストール直後で、20 のインディケータが装備されています。（全て英語ですが、アルファベット順に並んでいます。）
MetaTrader4 ではインターネット上で配布されているカスタムインディケータや、自分でプログラムしたカスタムインディケータを追加することが出来、ここが他のチャートソフトとの一番大きな違いです。

そしてこの「インディケータ」をいかに使いこなすかが、まさしく MetaTrader4 の醍醐味で、また優れたチャートソフトといわれる所以となります。

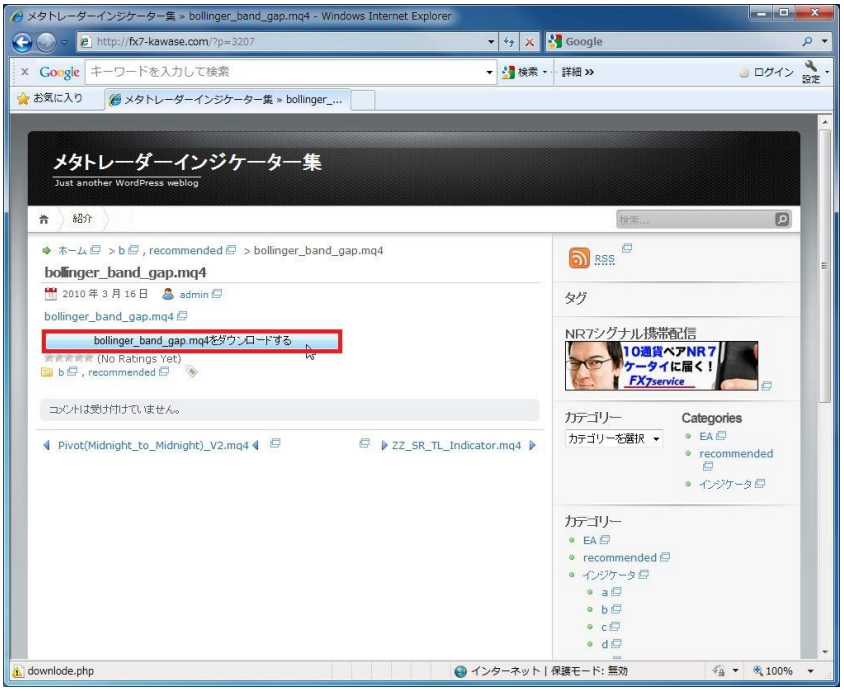
②カスタムインディケータの取得・インストール方法

MetaTrader4 は米国をはじめ海外では非常にメジャーな取引ツールとして人気があります。
また、カスタムインディケータも有志が無料でさまざまな種類のインディケータを公開していますので、インターネットを使って取得することが可能です。
たとえば、google や yahoo の検索で「メタトレーダー　インディケータ」と入力して検索してみるといくつかのサイトが見つかると思います。

※ご注意※
下記のインディケータ入手方法並びに使い方はあくまで一例で、当社が利用を推奨するものではございません。
無料のインディケータ掲載サイトより入手される際はご自身の責任においてお試しいただきますようお願いいたします。
また、ご自身で入手したインディケータに関する問い合わせは当社サポートの対象外となりますので、ご了承ください。

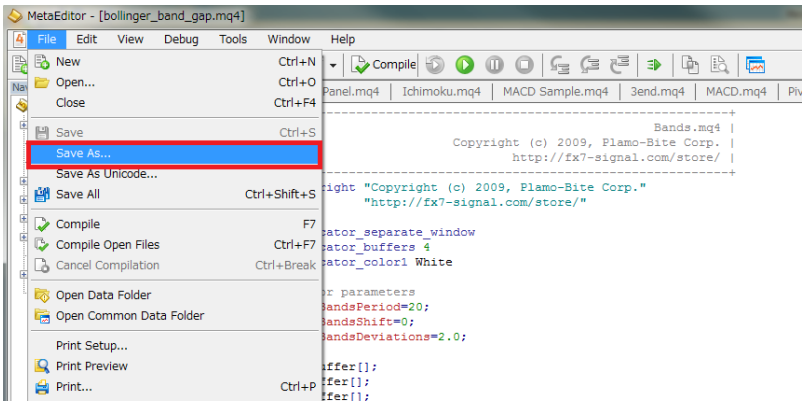
http://fx7-kawase.com/

全部で 3000 ほどのフリーのインディケータが並んでいます。
今回は「bollinger_band_gap」というインディケータをここからダウンロードしてみましょう。

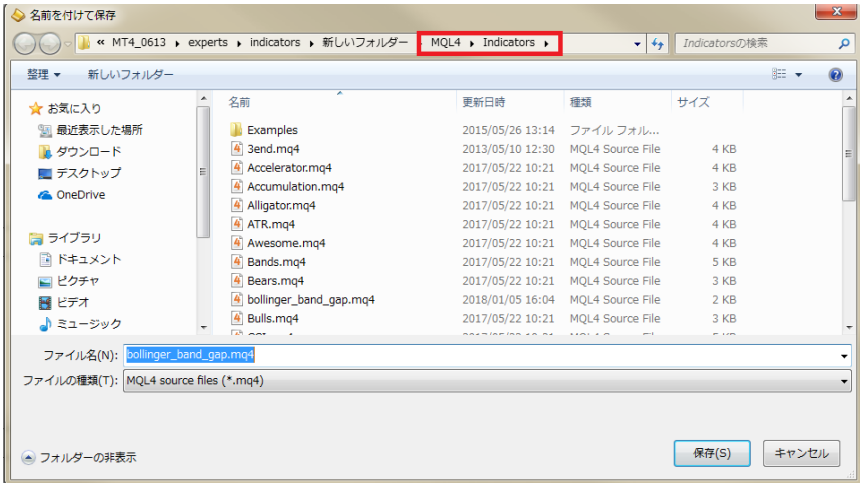


「bollinger_band_gap」を選択し、個別のページを開きます。
次に bollinger_band_gap をダウンロードする」ボタンを押します。

※ 「bollinger_band_gap」が見つからない場合は検索ウィンドウに、bollinger と入力して探してみてください。



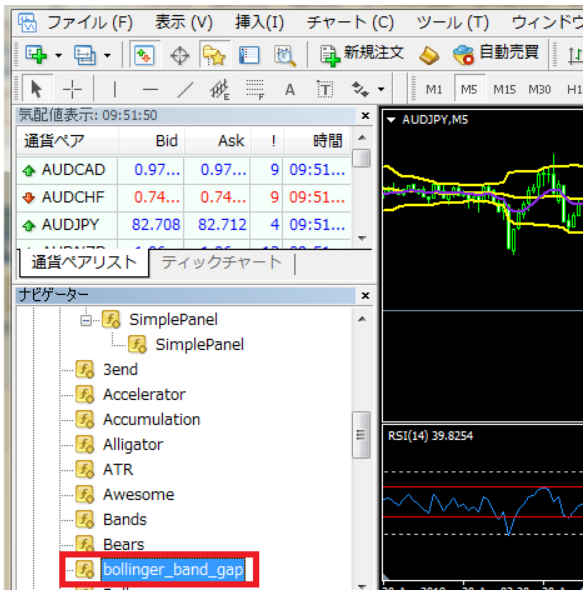
ダウンロードしたインディケータのメタエディター画面が表示されます。
画面左上の「File」から「Save AS」を選択します。



次に名前を付けて保存ウィンドウが開きますので、保存場所を「MQL4」→「Indicators」に指定し、「保存」ボタンを押します。

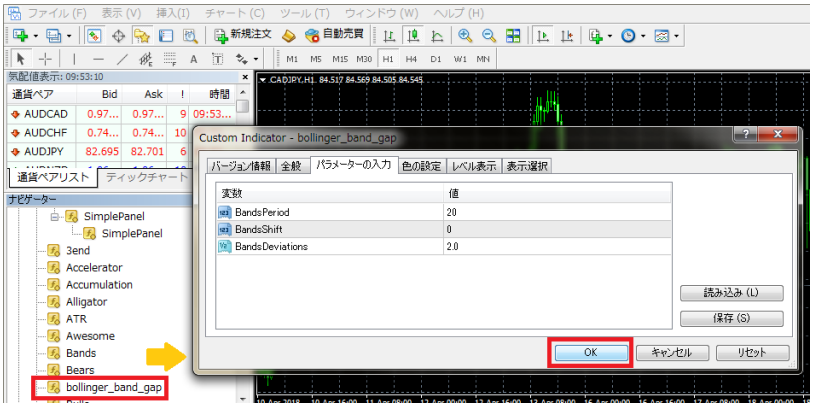
【保存先フォルダの開き方】

フォルダを全て閉じて、MetaTrader4 を再度起動（一旦閉じて再度開きます）させます。



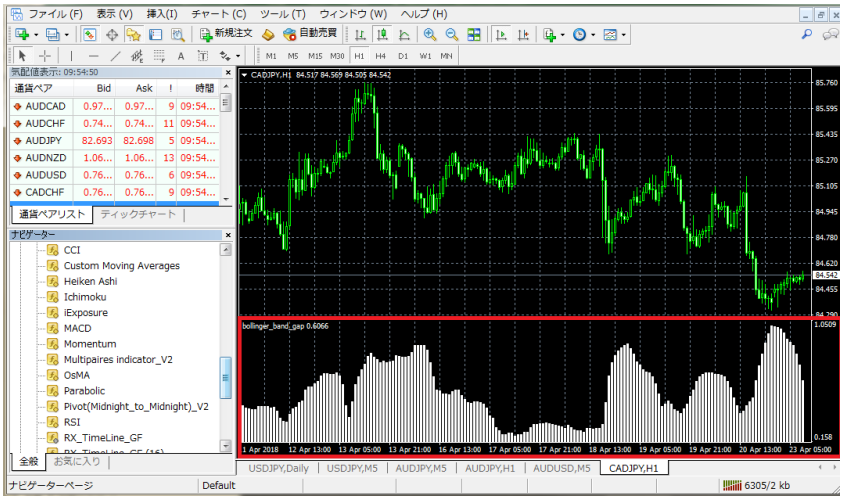
ナビゲーターのインディケータの中に、先ほどインストールした、「bollinger band　gap」のインディケータが表示されていれば、インストールは成功です！

それでは早速、「bollinger band　gap」をチャートに表示してみましょう。



「bollinger band　gap」インディケータをチャート上にドラッグします。

POP アップウィンドウが開きますので、今回はそのまま「OK」ボタンを押します。



サブウィンドウに「bollinger band gap」インディケータが表示されました。

ご覧のように、「ボリンジャーバンド・ギャップ」はチャートウィンドウ上の「ボリンジャーバンド」の幅がグラフとして表現されるインディケータです。

出来上がったチャートを、先ほどの「テンプレート」として保存しておくと他の通貨ペアでも瞬時に同じチャートが作れて便利です。

第 6 章　MetaTrader4 で自動売買をおこなう

自動売買について

外為ファイネスト MetaTrader4 での自動売買を始める前に、少し自動売買について整理してみたいと思います。

自動売買は、一般的に次のように分けることができます。

① FX 業者、または投資顧問会社などが配信する売買シグナルにもとづき、投資家が直接取引画面から手動で発注するもの。

② 自動売買機能を装備した取引プラットフォーム内で、自分が開発、もしくは有料・無料でダウンロードした取引プログラムを走らせて自動で発注を行うもの。

　① に関しては、受信したシグナルを投資家が直接取引画面で手入力するため、常に取引が出来る環境でないと実際に注文を発注することが難しく、また売買シグナルを受けてから注文発注までにタイムラグも生じる傾向があります。

　② MetaTrader4 による自動売買はこれにあたり、完全に自動で取引を行うパフォーマンスの高い EA（Expert Advisor）を採用することにより、①に比べて機会損失が少なく、高収益を得るチャンスが広がります。

MetaTrader4 で自動売買を行うメリットは、夜中や日中仕事等でパソコンの画面を確認できない時でも自動で注文を発注してくれることにあります。たとえば就寝中、大きく相場が動いて悔しい思いをしたりしたことがありませんか？こういう時は収益の機会を失ったことにより、実際にトレードで損をした時のように悔しい思いを感じてしまうことがあります。
しかし、MetaTrader4 で自動売買を行うことにより、パソコンの前に張り付いていなくても、EA(ExpertAdvidor)がプログラムに沿って自動売買を行ってくれます。その結果、裁量トレードでおこりがちな、感情的な取引を行うこともなくなり、良い結果につながる可能性が高まります。また、相場の状況に左右されず、プログラムに沿った売買をしてくれるため、ポジションを決済できずに塩漬けにしてしまうといったことがなくなります。
この様に、プログラムによる自動売買をうまく活用することができればリスクを軽減し、収益を安定させることができる可能性が高まります。一方、自動売買にもデメリットが無いわけではありません。相場は、常に「持合い」と「トレンド」を繰り返しています。一般的に「持合い」が 70～80%、「トレンド」が 20～30%の割合といわれていますが、自動売買はこのいずれかの場面を想定してプログラムされています。そのため、「持合い」に強いプログラムは、「トレンド」局面では弱く、逆に「トレンド」に強いプログラムは「持合い」局面では弱い傾向にあります。

しかしながら、高度にプログラミングされた EA(ExpertAdvisor)ならば、「持合い」と「トレンド」局面で「利益＞損失」を維持しつつ、高収益をあげることも可能です。

MetaTrader4 での自動売買のメリット

MetaTrader4 は世界中で最も個人投資家の方々に使われている自動売買プラットフォームです。MetaTrader4 で自動売買を行うメリットを少しまとめてみました。

●わかりやすい開発環境

MetaTrader4 ではＭＱＬ４と呼ばれる独自のプログラミング言語を使っています。非常にシンプルで多くの人が EA(ExpertAdvisor)の開発に参加しています。

●バックテスト機能が充実している。

自動売買プログラムは実際に安定したパフォーマンスを残せるかどうか、実践前に検証をしていくことが大切です。

実践で EA(ExpertAdvisor)を走らせる前にバックテストを行い、高パフォーマンスを期待出来る状態でトレードに臨みましょう。MetaTrader4 では、このバックテスト機能が非常に充実していることも人気の理由です。

●EA(ExpertAdvisor)の入手が簡単。

MetaTrader4 で動く EA（Expert Advisor）は、有料および無料のものを合わせて非常に多くがインターネット上で入手可能です。いろいろな EA(ExpertAdvisor)を入手できるため、簡単に自動売買をスタートすることができます。

●多様な言語（マルチランゲージ）に対応している。

一般的に、高機能なチャートソフトは英語環境のものが多いのですが、MetaTrader4 は取引画面およびバックテスト等も日本語で表示されます。

MetaTrader4 での自動売買

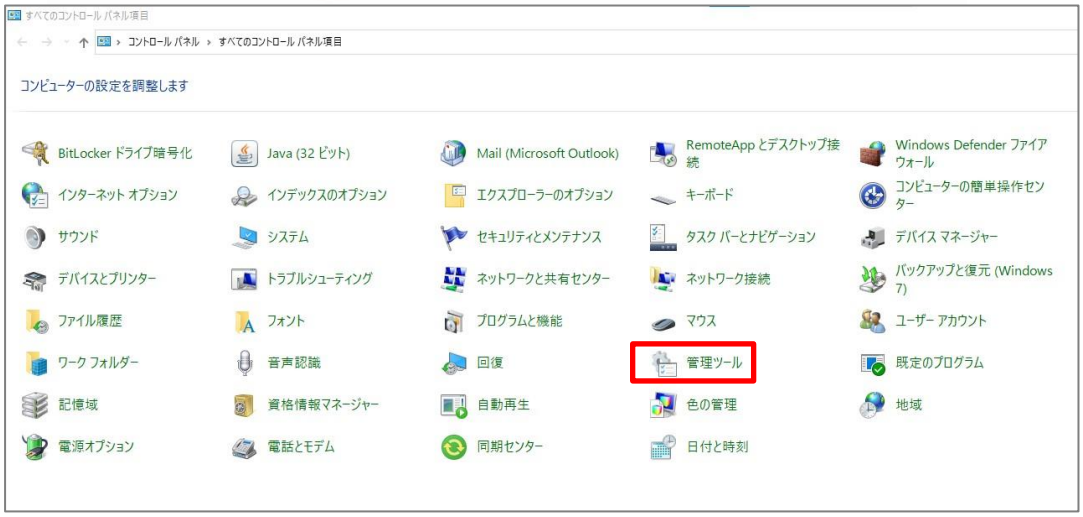
①自動売買をはじめる前のパソコンの設定

MetaTrader4 で自動売買をスタートするには、すでに MetaTrader4 がインストールされているパソコンがあれば特に新しく追加の準備は必要ありません。

但し、MetaTrader4 で自動売買プログラムが稼働している間は、常にパソコンを稼働させている必要があります。しかしながら、Windows の初期設定では更新プログラムを自動でダウンロードして再起動を行ったり、電源が自動で切れてしまうようになっていることがありますので、自動売買をスタートする前に次の内容をご自身のパソコンで確認することをおすすめします。

<u>自動更新プログラムの設定確認</u>

※Windows10 の設定画面です。



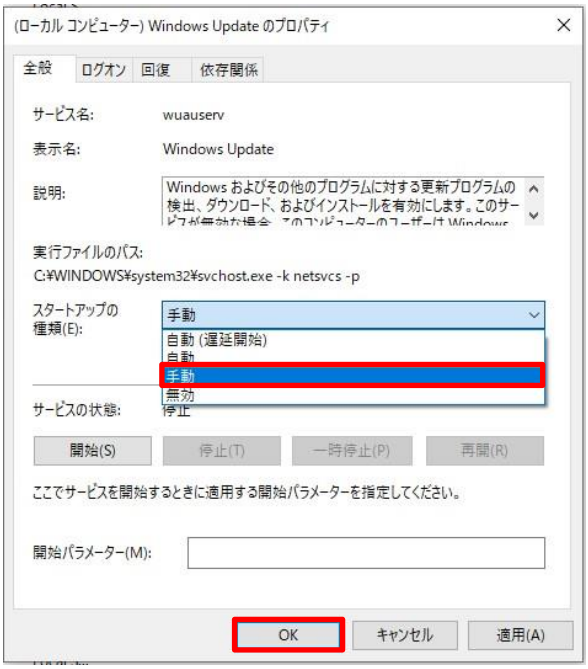
最初に、スタートメニューから「コントロール パネル」を開きます。

次に、「管理ツール」の項目を開き「サービス」を選択し開きます。

次に「Windows Update」を右クリックし、「プロパティ(R)」を選択します。

「スタートアップの種類(E):」が「自動」状態だと Windows の更新データがあった場合、自動的に再起動されてしまうことがありま

すので、自動インストールがされないように、設定を「手動」に変更します。
変更後、「OK」を押して画面を閉じます。



Windows Update プロパティの「スタートアップの種類(E):」のプルダウンから「手動」を選択し、「OK」をクリックします。

これで、自動売買を行う前のパソコンの設定(ハード面)は終了です。

<u>電源設定の変更</u>

次に、パソコンの電源設定の変更を行います。
スタートメニューから「コントロールパネル」を開きます。

コントロールパネル画面が開いたら、「電源オプション」をクリックします。

「電源オプション」が開いたら、左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。

設定画面が開いたら、「コンピューターをスリープ状態にする」を「適用しない」に設定し、「変更の保存」をクリックしてください。

これで設定はすべて完了です。

②MetaTrader4 への EA のインストール

さていよいよ MetaTrader4 で EA を使って自動売買を行う方法についてご説明します。
パソコンに MetaTrader4 をインストールし電源プログラム等のハード面の設定が終り、次に必要になるのが EA（Expert Advisor）という自動売買プログラムです。
EA はプログラムの簡単な知識があればご自身で作ることもできますが、一般的には有料で EA を購入したり、無料で配布されている EA を最適化して使うことがほとんどだと思います。
ここでは、入手した EA をインストールして、バックテストを行い、最適化を行う方法をまとめています。

EA は投資助言・代理業として登録されている販売業者よりご購入・入手いただきますようお願いいたします。また、ご購入の際は金額や EA の内容など契約条件などをお客様ご自身で十分ご確認ください。

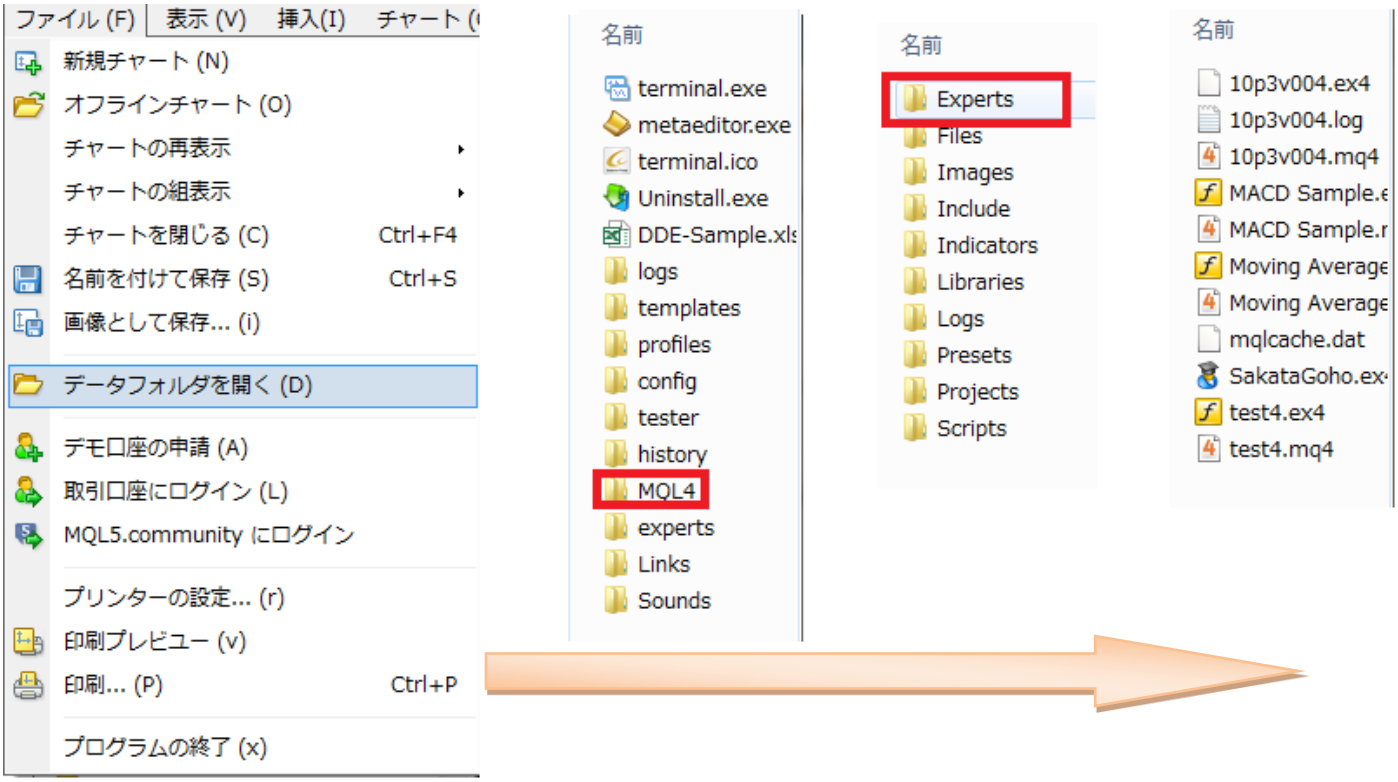
EA のインストール方法は動画でも解説しておりますので、そちらも併せてご参照ください。

■MT4 取引システムに EA を保存する方法、及び EA の設置方法
https://youtu.be/X8Xwp70D-SY

EA のインストール

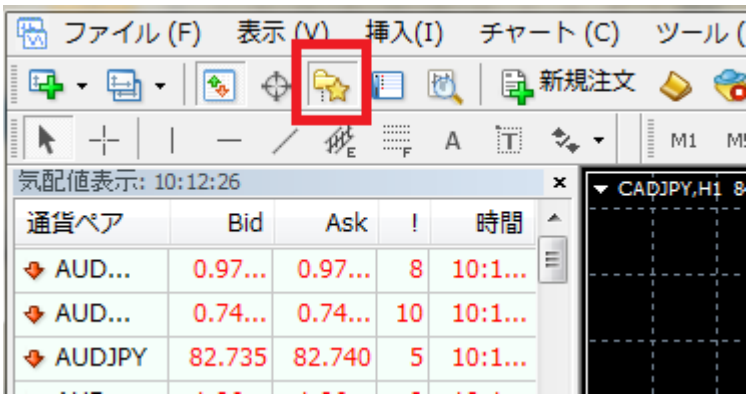
【保存先フォルダの開き方】

MT4プラットフォーム上からファイルメニューの「データフォルダを開く」をクリックし、「MQL4」フォルダ内の「Experts」フォルダにEAファイルを保存してください。

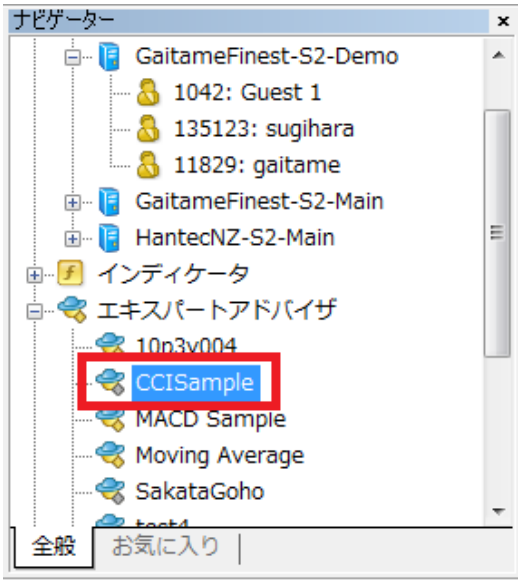


MetaTrader4 にインストールされているか確認してみましょう。

インストールが完了したら、MetaTrader4 を起動します。（すでに MT4 を起動していた場合は、再起動してください。）



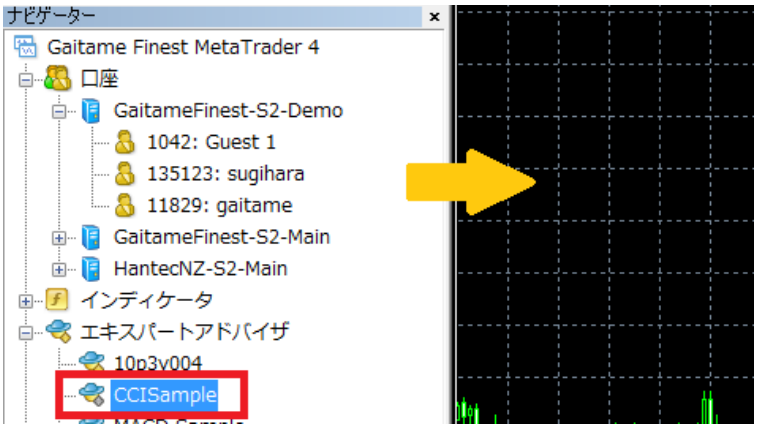
メニューバーから「ナビゲーター」ボタンをクリックしナビゲーターウィンドウを表示させます。



「ナビゲーター」ウィンドウの「Expert Advisors」の左の「＋」をクリックし先ほどインストールした「CCI Sample」というファイルが表示されていればEAのインストールは成功です。

③EA のパラメーターの設定方法

EA をチャート上に表示させましょう



最初に、自動売買を行うチャートを表示させ、先ほどインストールした「CCI Sample」EAをチャート上にドラッグアンドドロップします。

EA を動かすための準備をしよう

EA をドラッグアンドドロップすると、下のようなウィンドウがポップアップします。

「全般」のタブの中で、

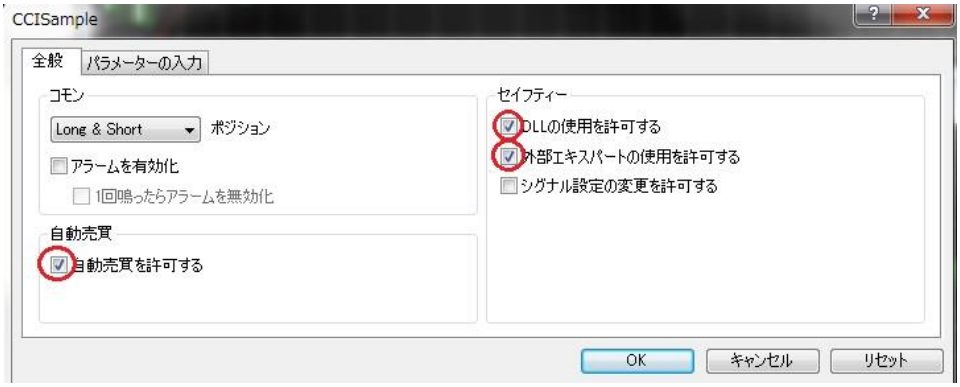
□自動売買を許可する

□DLL の使用を許可する

□外部エキスパートの使用を許可する

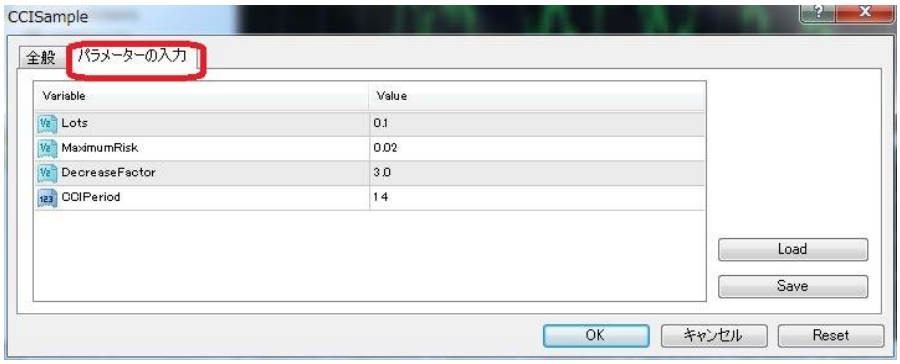
の項目にチェックが入っている事を確認し、チェックが入っていない場合✓を入れてください。

※こちらは一度設定すると改めて設定し直す必要はありません。



EA のパラメーターを設定しましょう。

次に「パラメーター」のタブを押してください。



初期設定では

・Lots　0.1

・Maximum Risk　0.02

・Decrease Factor　3.0

※0.1 は 1 万通貨単位です。

となっています。

今回はこのままの設定で、「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

EA を起動します。

チャートの右上に EA の名前が出ていると思います。

OK を押した直後は「CCI　Sample ☹」と表示が出ていると思いますが

この状態ではまだ自動売買はスタートしていません。

次にツールバー中央の「自動売買」のボタンをクリックします。

「CCI Sample ☹」の表示が「CCI Sample ☺」に変わったと思います。この時「CCI Sample☹」となっているときは自動売買が正しくスタートしていません。

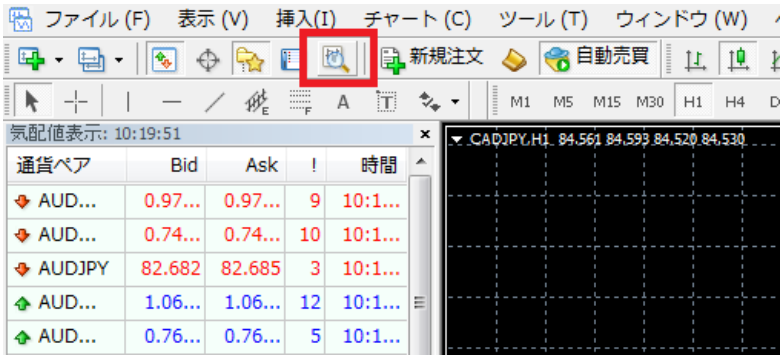
先ほどの EA プロパティで「Allow live trading」にチェックが入っていないと思われますので CCI Sample のプロパティを開いて再度確認してください。

EA のプロパティの出し方

EA を挿入しているチャート画面で右クリックし「エキスパートアドバイザ」→「設定」の順でクリックし設定ウィンドウを表示させます。

④Strategy Tester を使ってのバックテスト方法

バックテストは MetaTrader4 の「Strategy Tester」（ストラテジーテスター）を立ち上げて実施します。



ツールバーの「虫眼鏡マークのついたアイコン」をクリックすると Strategy Tester が起動します。

チャートウィンドウの下に「テスター」というウィンドウが表示されました。

以下の条件でバックテストを行ってみましょう。

Expert Advisor のタブの右端の▼をクリックして EA を選択します。

今回は先ほどインストールした CCISample を選びます。

「通貨ペア」を選択します。 今回はオーストラリアドル円を選択します。

「モデル」で「始値のみ（最も早い方法。バーの始めにしか動かない EA 向け）」を選択します。

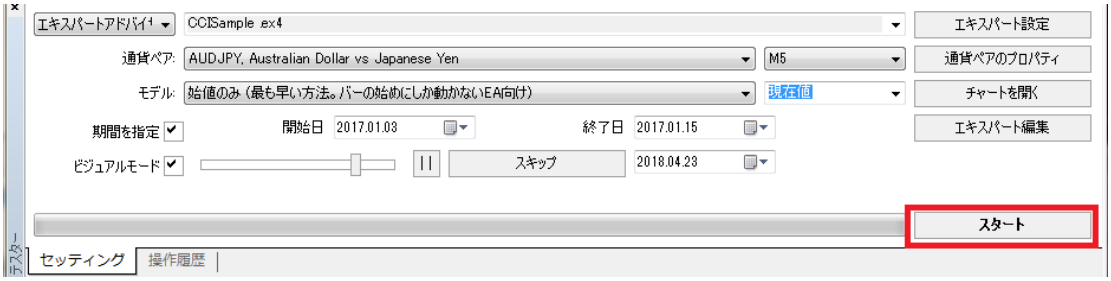
「日付と時間を使用」にチェックを入れ期間を設定します。

今回、期間は 2017 年 1 月 3 日から 2017 年 1 月 15 日で設定します。

※バックテストデータが存在しない場合は、history Center より過去データをダウンロードする必要があります。

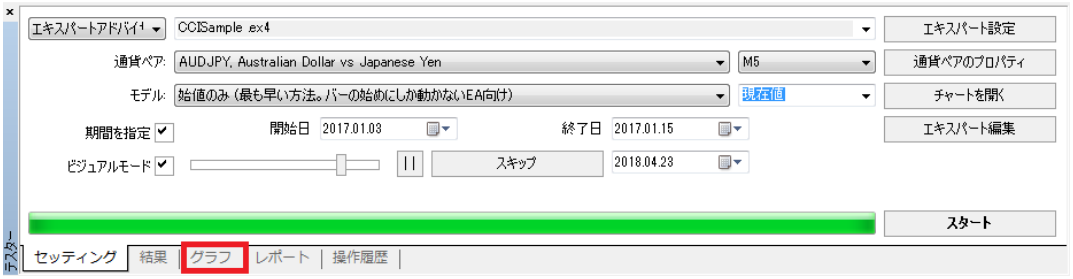
最後に「期間」で「M5」の 5 分足を選択します。

全ての設定が終了し、右下の「スタート」ボタンをクリックするとバックテストがスタートします。



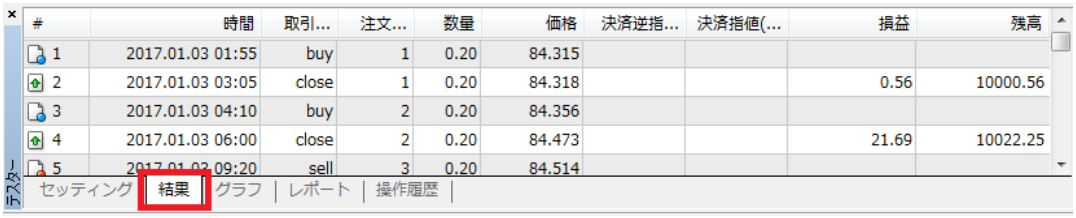
レポートの見方

スタートボタンをクリックして、無事にバックテストが終了すると下のタブに「結果」「グラフ」「レポート」の項目が増えているのが確認できます。



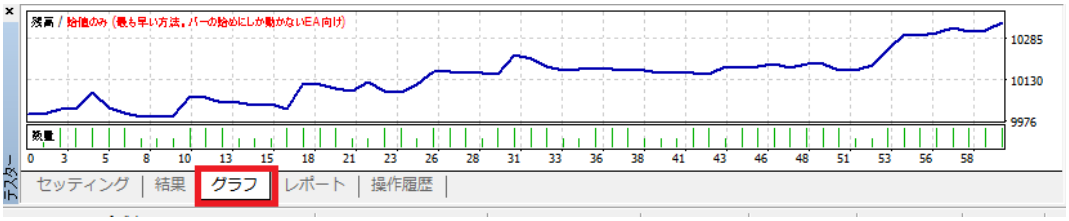
「結果」タブについて

「結果」タブを押すとバックテストのすべての取引詳細を見ることが出来ます。



「グラフ」タブについて

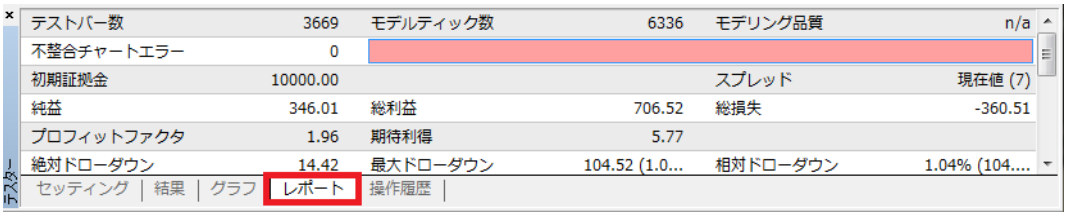
「グラフ」をクリックすると取引結果をグラフで確認することができます。



縦軸は資産、横軸は注文番号を表します。

「レポート」タブ

「レポート」タブをクリックするとバックテストの詳細なレポートが見ることが出来ます。



今回のバックテストの結果を「グラフ」タブで見ると収益がマイナスになっています。

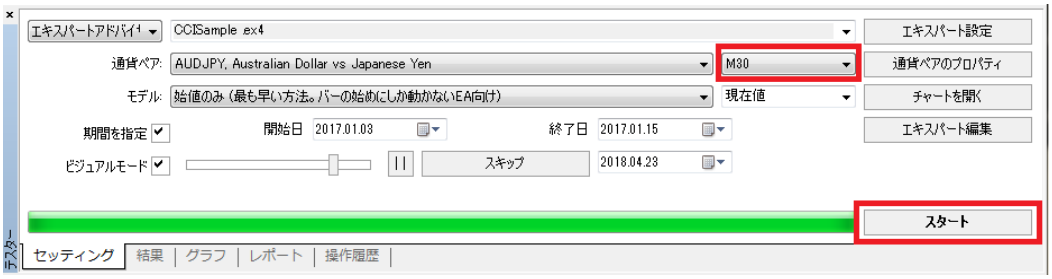
このままこの EA を動かすと取引回数を重ねれば重ねるほど資産が減っていくことになります。

※各数値の見方については、99 ページをご参照ください。

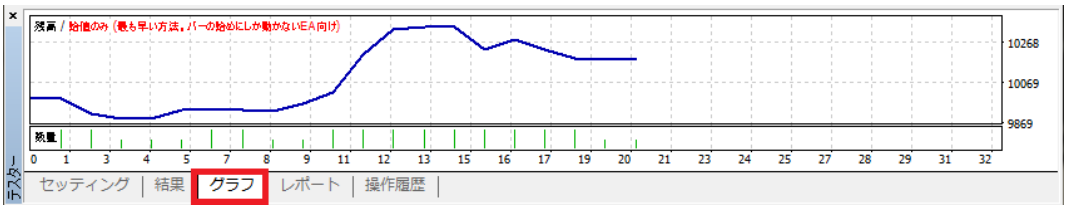
⑤EA の最適化を行う

期間を変更しての検証

今回、先ほど「M5」で設定した「期間」を「M30」（30 分足）に設定し、スタートボタンを押します。



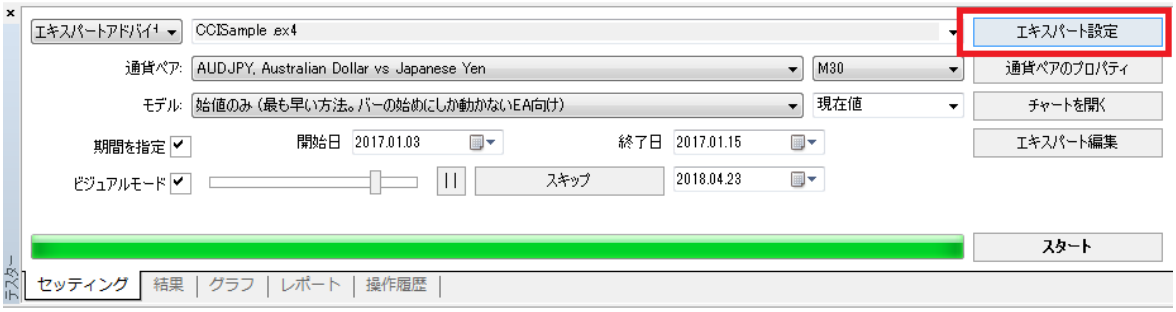
「グラフ」タブで結果を見てみると、先ほどより少しだけ良くなりました。



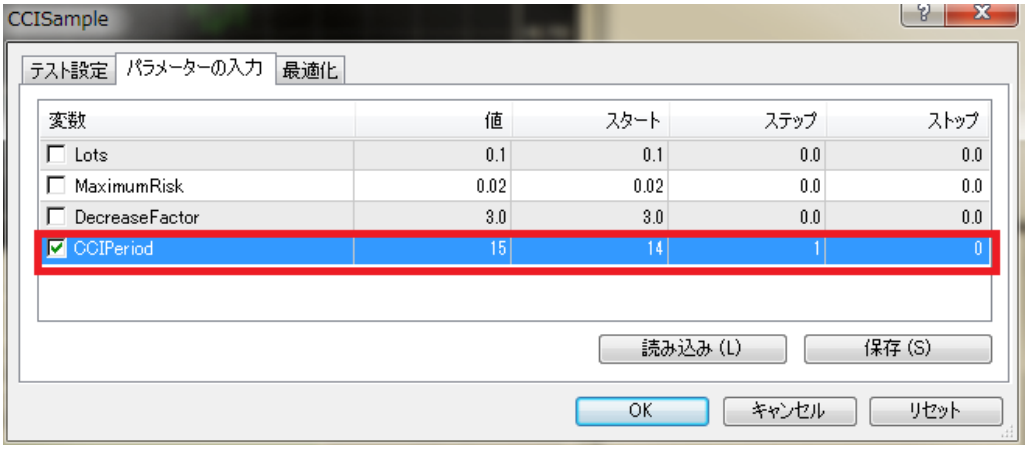
このまま 30 分足を基に最適化を進めてみます。

EA のプロパティの変更

次に、EA のプロパティを変更してみましょう。



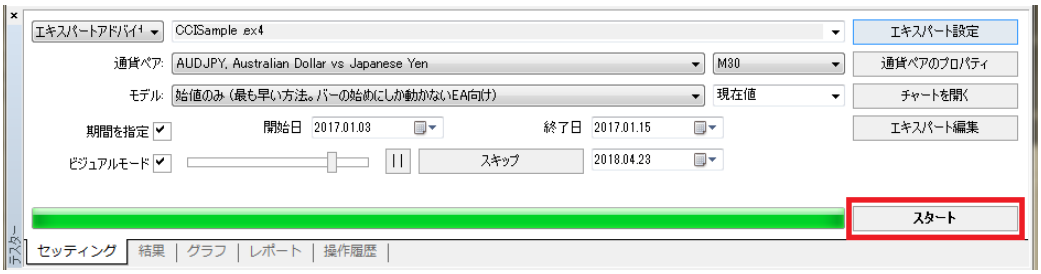
右上の エキスパート設定 ボタンを押すと「CCI Sample」のプロパティのウィンドウが表示されます。



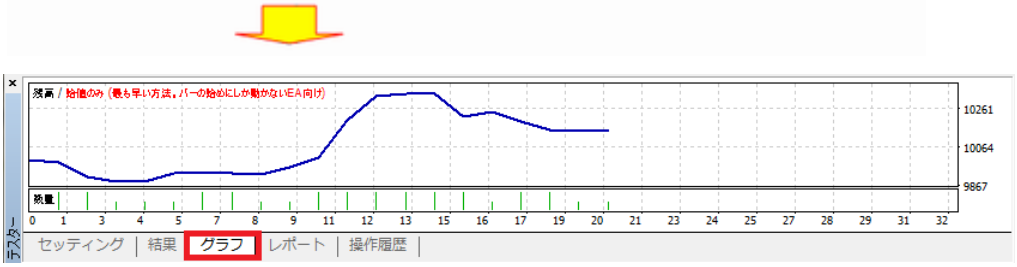
「パラメーターの入力」タブで「CCIPeriod」(CCI の平均偏差期間)の値(value)を「15」に変更してみましょう。

「Value」が現在の設定値です。この数字を「15」に変更して「OK」ボタンをクリックします。

今回はこの数字のみを変更し「OK」ボタンをクリックします。



「スタート」ボタンをクリックして再度バックテストを行います。



あまり変化がありません。

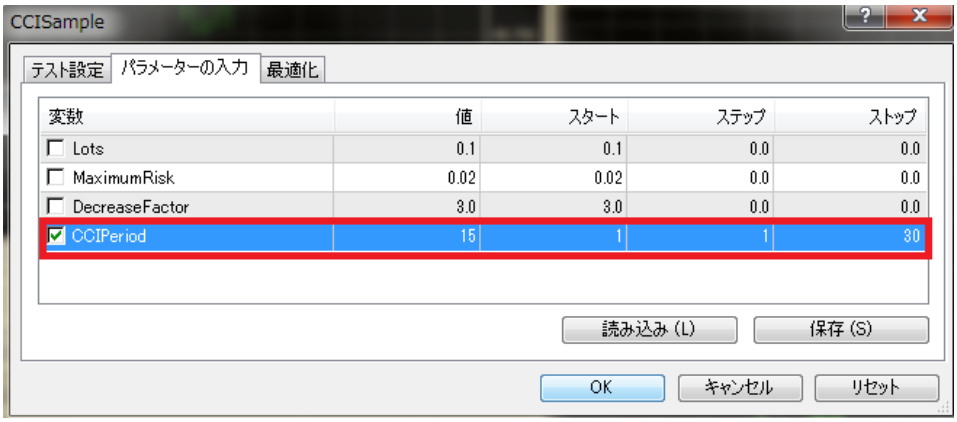
再度パラメーターを変更して最適化を進めていきます。

連続してパラメーターを変更してみよう

CCIPeriod パラメーターを 1、2,3……..30 のように 30 まで変更して結果を見たい場合 30 回バックテストをし直すのは大変面倒です。

しかしながら MetaTrader4 は、パラメーターの数値を変更したバックテストを一度で行うことが可能です。

先ほど、CCIPeriod を変更した時と同様に EA のプロパティ画面を立ち上げます。



次に「パラメーター」タブの CCIPeriod の項目で、「スタート 1」、「ステップ 1」、「ストップ 30」入力し、チェックボックスの□に「レ」を入れて「OK」ボタンを押します。

「スタート」はパラメーターの初期値

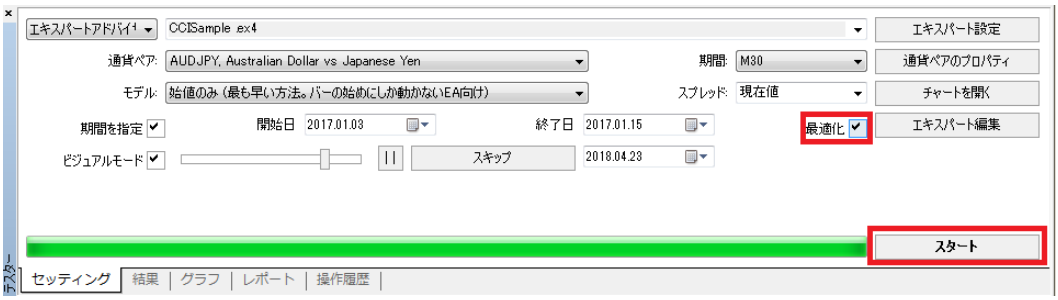
「ステップ」はパラメーターの変化幅

「ストップ」はパラメーターの最終値

をあらわします。

これで CCI の period を「1」から「1」ずつ増やして「30」になるまで連続して 30 回最適化計算が実施されます。

入力が終わったら「セッティング」のタブに戻ります。



「最適化」にチェックを入れることによって「最適化」の計算が行われます。

「スタート」ボタンをクリックしてバックテストを行います。

最適化が終了すると「最適化結果」、「最適化グラフ」の項目が追加されます。

「最適化結果」タブでは、最適化計算の結果を見る事が出来ます。

パス	損益	総取引数	プロフィット...	期待利得	ドローダウン $	ドローダウン %	パラメーターの入力
4	355.55	60	2.00	5.93	104.06	1.03	CCIPeriod=14; Lots=0.1; MaximumRisk=0....
3	174.50	68	1.38	2.57	121.50	1.21	CCIPeriod=10; Lots=0.1; MaximumRisk=0....
2	111.41	85	1.23	1.31	201.32	1.97	CCIPeriod=8; Lots=0.1; MaximumRisk=0.0...
9	101.11	49	1.36	2.06	153.66	1.50	CCIPeriod=30; Lots=0.1; MaximumRisk=0....
6	100.56	56	1.37	1.80	154.75	1.51	CCIPeriod=16; Lots=0.1; MaximumRisk=0....
7	60.69	44	1.15	1.38	167.49	1.67	CCIPeriod=23; Lots=0.1; MaximumRisk=0....
5	48.29	52	1.11	0.93	207.31	2.06	CCIPeriod=15; Lots=0.1; MaximumRisk=0....
1	5.98	145	1.01	0.04	277.75	2.71	CCIPeriod=4; Lots=0.1; MaximumRisk=0.0...
8	3.75	52	1.01	0.07	213.08	2.09	CCIPeriod=25; Lots=0.1; MaximumRisk=0....

テスター　セッティング | 最適化結果 | 最適化グラフ | 結果 | グラフ | レポート | 操作履歴

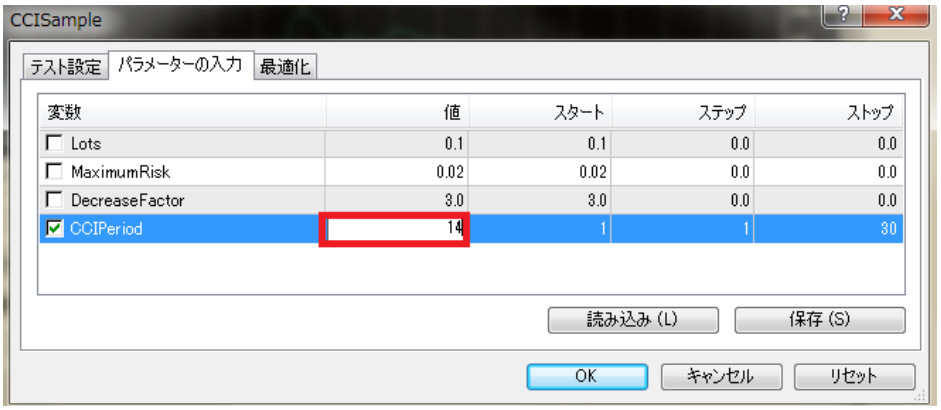
この詳細画面で最初の行が、最もパフォーマンスが良かったときのパラメーターです。

パス	損益	総取引数	プロフィット...	期待利得	ドローダウン $	ドローダウン %	パラメーターの入力
4	355.55	60	2.00	5.93	104.06	1.03	CCIPeriod=14 Lots=0.1; MaximumRisk=0....
3	174.50	68	1.38	2.57	121.50	1.21	CCIPeriod=10; Lots=0.1; MaximumRisk=0....

「損益」が 355.55 「パラメーターの入力」CCIPeriod=14 と表示されています。

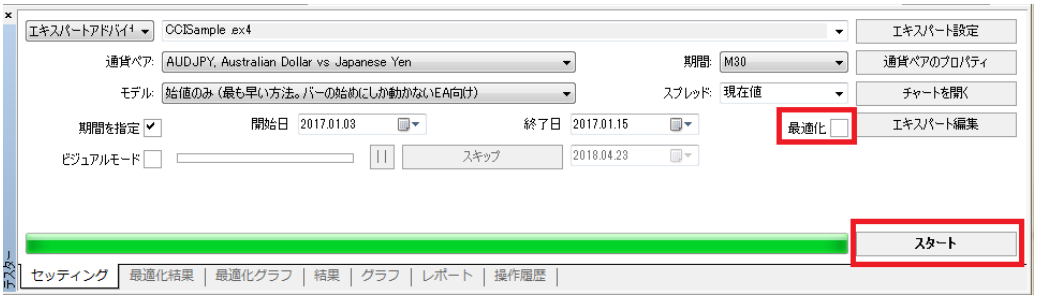
最適化結果のパラメーターを使ってバックテストの実施

次に先ほどの結果から「CCIPeriod=14」を EA のプロパティ画面で入力してバックテストを実施してみましょう。



パラメーターの入力画面で CCI Period の value の項に「14」と入力し「OK」ボタンをクリックします。

次に、「テスター」画面に戻り



「最適化」のチェックをはずして「スタート」ボタンをクリックしてバックテストを開始します。

最適化後のバックテストの結果を確認する。

このように、最初は全く収益の出ていなかった EA ですが、最適化することによりパフォーマンス結果を改善することができました。

⑥レポートの見方

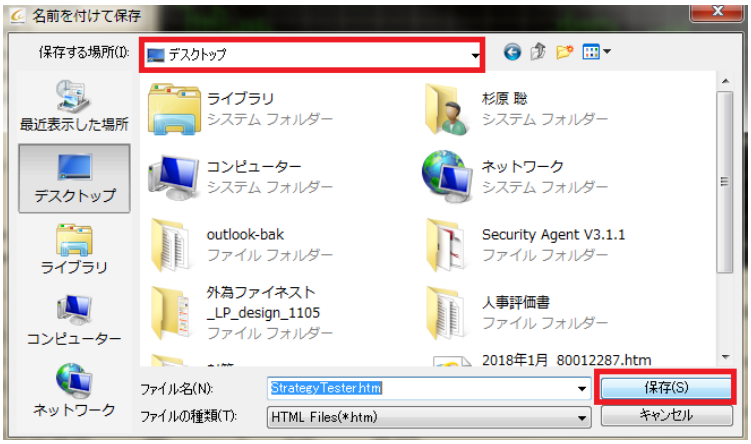
レポートの保存方法

バックテストが終わったら、結果をレポートとして保存して確認してみましょう。

「テスター」ウィンドウの「結果」タブを開きマウスを右クリックすると、ポップアップメニューが出てきます。

ここで「レポートの保存」を選択します。

ポップアップが開きますので「ファイル名」と、「保存する場所」を指定して「保存」ボタンを押します。



保存が完了するとインターネットのブラウザーが立ち上がってレポートが表示されます。

Strategy Tester Report

CCISample

GaitameFinest-S2-Demo (Build 1090)

通貨 ペア	AUDJPY (Australian Dollar vs Japanese Yen)				
期間	5分足 (M5) 2017.01.03 00:00 - 2017.01.14 06:54 (2017.01.03 - 2017.01.15)				
モデル	始値のみ (バーの始めにしか動かないEA向け)				
パラメーター	Lots=0.1; MaximumRisk=0.02; DecreaseFactor=3; CCIPeriod=14;				
テストバー数	3669	モデルティック数	6336	モデリング品質	n/a
不整合チャートエラー	0				
初期証拠金	10000.00			スプレッド	現在値 (5)
純益	364.99	総利益	715.01	総損失	-350.02
プロフィットファクタ	2.04	期待利得	6.08		
絶対ドローダウン	12.01	最大ドローダウン	103.62 (1.03%)	相対ドローダウン	1.03% (103.62)
総取引数	60	売りポジション(勝率%)	33 (39.39%)	買いポジション(勝率%)	27 (55.56%)
		勝率(%)	28 (46.67%)	負率 (%)	32 (53.33%)
	最大	勝トレード	93.07	敗トレード	-59.14
	平均	勝トレード	25.54	敗トレード	-10.94
	最大	連勝(金額)	4 (86.24)	連敗(金額)	4 (-90.46)
	最大	連勝(トレード数)	137.48 (3)	連敗(トレード数)	-90.46 (4)
	平均	連勝	2	連敗	2

＊ウィンドウズ VISTA やウィンドウズ 7 では指定する場所によって保存出来ない時や保存が出来てもレポートが立ち上がらない時があります。その場合は、「保存先をデスクトップ」に指定してください。

レポート項目の説明　～最低限理解しておきたい項目について説明します。～

「Total net profit」(トータルネットプロフィット)

資産の増減量を表し、計算式は以下のとおりです。

総純益(Total net profit)＝利益総量(Gross profit) － 損失総量(Gross loss)

「Profit factor」(プロフィットファクター)

総利益を総損失で割ったものです。1 を超えてれば純利益があることを表します。

逆にこの数値が「1」を超えていないと収益が出ないということになります。

「Maximal drawdown」（最大ドローダウン）

資産グラフで上のピーク値から下のピーク値までの幅をドローダウンと定義し、その中で最大幅のものを最大ドローダウンと言います。

「Total trades」（総トレード数）

バックテストで行った総トレード回数です。

一般的に回数が多いほどバックテストの信頼性は高くなります。

その他の項目について

Bars in test・・・テストしたバーの数
Ticks modeled・・・テストで利用したティック数
Modeling quality・・・テストで利用したティックの割合
Mismatched charts errors・・・エラーのあったバーの数
initial deposit・・・初期投資額
Total net profit・・・総純損益（総利益−総損失）【多い方が良い】
Gross profit・・・総利益
Gross loss・・・総損失
Profit factor・・・プロフィットファクター（総利益/総損失）【2.00 以上を目安】
Expected payoff・・・期待損益（総純損益/総トレード数）
Absolute drawdown・・・初期投資額からのドローダウン
Maximal drawdown・・・最大ドローダウン【30%以下を目安】
Relative drawdown・・・相対ドローダウン
Total trades・・・総トレード数
Short positions(won%)・・・売りトレード数（勝率）
long positions(won%)・・・買いトレード数（勝率）
Profit trades(%of total)・・・勝ちトレード数（率）
Loss trades(%of total)・・・負けトレード数（率）
Largest profit trade・・・1トレード当たりの最大利益
Largest loss trade・・・1トレード当たりの最大損失
Average profit trade・・・勝ちトレードの平均利益
Average loss trade・・・負けトレードの平均損失
Maximum consecutive wins ・・・ 最大連続勝ちトレード数（利益）
Maximal consecutive losses ・・・ 最大連続負けトレード数（損失）
Maximal consecutive profit ・・・ 最大連続利益（勝ちトレード数）
Maximal consecutive loss ・・・ 最大連続損失（負けトレード数）
Average consecutive wins ・・・ 平均連続勝ちトレード数
Average consecutive loss ・・・ 平均連続負けトレード数

取引報告書(Daily Statement)の見方

MT4 の取引報告書は MT4 プラットフォームの「ターミナルウィンドウ」内「口座履歴」タブから閲覧可能です。また、営業日毎にご登録のメールアドレスに送信されます。

取引報告書は必ずご確認ください。内容に相違・不明点等がある場合は、速やかに当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

A/C No.
口座番号

Name
口座名義

Closed Transactions
決済取引の一覧

報告書発行日時

Gaitame Finest Company Limited

Account: **Name:** **Currency: JPY** **2019 September 5, 14:36**

Closed Transactions:

Ticket	Open Time	Type	Size	Item	Price	S / L	T / P	Close Time	Price	Commission	Taxes	Swap	Profit
16170481	2019.06.28 10:26:01	sell	0.01	audnzd	1.04561	1.04761	1.04361	2019.07.01 11:48:09	1.04361	0	0	-2	146
16170611	2019.06.28 10:30:02	sell	0.01	audnzd	1.04541	1.04741	1.04341	2019.07.01 11:49:42	1.04341	0	0	-2	145
16170875	2019.06.28 10:40:01	sell	0.01	audnzd	1.04528	1.04728	1.04328	2019.07.01 12:02:55	1.04328	0	0	-2	145
16198308	2019.07.01 08:03:01	sell	0.01	gbpjpy	137.444	137.644	137.244	2019.07.01 10:54:18	137.244	0	0	0	200
										0	0	-6	636

Deposit/Withdrawal: 0 **Credit Facility: 0** **Closed P/L: 630**

Deposit/Withdrawal
入出金

Credit Facility
与信（当社の MT4 では利用しません）

Closed Trade P/L
確定取引損益合計

Open Trades
オープンポジションの一覧

Open Trades:

Ticket	Open Time	Type	Size	Item	Price	S / L	T / P		Price	Commission	Taxes	Swap	Profit
17432478	2019.09.05 04:35:28	buy	0.10	usdjpy	106.635	0.000	0.000		106.616	0	0	0	-190
17432645	2019.09.05 04:42:14	buy	0.10	gbpusd	1.22459	0.00000	0.00000		1.22435	0	0	0	-256
17432648	2019.09.05 04:42:15	buy	0.10	gbpusd	1.22457	0.00000	0.00000		1.22435	0	0	0	-234
										0	0	0	-680

Floating P/L: -680

Floating P/L
評価損益合計

Wording Orders
発注済み注文の一覧

Working Orders:

Ticket	Open Time	Type	Size	Item	Price	S / L	T / P	Market Price	
17432608	2019.09.05 04:41:27	buy limit	0.10	usdjpy	106.426	0.000	0.000	106.622	
17432617	2019.09.05 04:41:37	sell stop	0.10	usdjpy	106.448	0.000	0.000	106.616	

A/C Summary:

Previous Ledger Balance:	5 662 008	Floating P/L:	0
Closed Trade P/L:	2 049	Total Credit Facility:	0
Deposit/Withdrawal:	0	Equity:	5 664 057
Balance:	5 664 057	Margin Requirement:	0
		Available Margin:	5 664 057

Best Regards
Accounts Department

Please report to us within 24 hours if this statement is incorrect. Otherwise this statements will be considered to be confirmed by you.

A/C Summary:	口座情報
Previous Ledger Balance:	開始残高
Closed Trade P/L:	確定取引損益
Deposit/Withdrawal;	入出金
Balance:	最終残高
Floating P/L:	評価損益
Total Credit Facility:	総与信（当社の MT4 では使用しません）
Equity:	有効証拠金
Margin Requirement:	必要証拠金
Available Margin:	余剰証拠金

免責事項

取引にかかる留意事項

お取引に関する留意事項を下記のページに記載しております。必ずご一読いただきますようお願い申し上げます。
https://www.gaitamefinest.com/attention

MT4 の利用に関する注意事項

外為ファイネストでは、特定の EA やインディケータの推奨、提供を行っておりません。万が一、お客様が利用されている EA またはインディケータ、その他の情報において損害等が発生した場合、当社は一切の責任を負いませんので予めご了承ください。EA、インディケータ等ご利用の際は「MT4」約款及び取引説明書をよくご確認のうえお使いいただきますようお願い申し上げます。
なお、本ガイド記載の EA 等に関してのお電話や E メールでのお問い合わせは受け付けておりません。

MT4 の取引に関する重要事項

●お取引にあたっては契約締結前交付書面の内容をよくお読みいただき、店頭外国為替証拠金取引に係るリスク及び注意事項を十分にご理解のうえ、お客様ご自身の判断と責任においてお取引ください。
●店頭外国為替証拠金取引は、取引額（約定金額）に対して少額の証拠金をもとに取引を行うため、証拠金に比べ多額の利益を得ることもありますが、短期間のうちに多額の損失を被る可能性もあります。
●店頭外国為替証拠金取引は、通貨等の価格または金融指標の数値の変動、通貨間の金利差調整額の支払い、ロスカット等により損失が生ずるおそれがあり、また、その損失額がお客様の預託証拠金を上回ることもあります。
●当社が提示する取引レートは 2WAY プライス方式で、売値と買値に差（スプレッド）が生じます。スプレッド幅は為替相場の急激な変動、流動性の低下等により拡大することがあります。また、それらの状況では、スリッページが発生することやお客様の発注した注文が失効することがあります。
●各国における金利変動により 2 国間の金利差が変化しますので、スワップポイント（金利差調整額）の受取りは将来にわたり保証されるものではありません。スワップポイントは受払いが逆転、或いは売り、買い共に支払いとなることがあります。
●個人コースのレバレッジは 25 倍（固定）です。
●法人コースのレバレッジは最大 70 倍（通貨ペアにより異なる）です。なお、金融先物取引業協会が算出するレバレッジが当社の定めた各通貨ペアの最大レバレッジを下回った場合は、金融先物取引業協会が算出したレバレッジを適用します。
●取引手数料は無料です。